財団法人 東洋文庫年報

昭和57年度

財団法人 東洋文庫

財団法人 東洋文庫年報 昭和57年度

目次

Ⅰ 昭和57年度の東洋文庫 …… 3

Ⅱ 図書事業 …… 5

1. 図書資料の収集 …… 5
2. 図書資料の保存整理 …… 6
3. 図書資料の閲覧 …… 6
4. 資料複製増刷サービス …… 7

Ⅲ 研究事業 …… 8

1. 調査研究 …… 8
   - ⅰ 文部省科学研究費による調査研究 …… 8
   - ⅱ 一般調査研究 …… 9
   - ⅲ 特別調査研究 …… 11
   - ⅳ 研究委員会 …… 13
2. 学術図書出版 …… 13
3. 講演会 …… 14
4. 研究会 …… 15
5. 研究者養成 …… 15
6. 国内・国外研究者への便宜供与 …… 15
   - ⅰ 国内研究者の受入 …… 15
   - ⅱ 外国人研究者の受入 …… 15
   - ⅲ 外国人・外国人研究者への便宜供与 …… 16

7. 職員の研究業績 …… 21
Ⅳ 業務報告 …… 35
1. 庶務報告 …… 35
2. 人事報告 …… 36
3. 会計報告 …… 38
Ⅴ 役職員名簿 …… 50
1. 役員 …… 50
2. 東洋学連絡委員会委員 …… 52
3. 名誉研究員 …… 53
4. 職員 …… 53
5. 臨時職員 …… 56
Ⅵ 組織 …… 57
Ⅶ 東洋文庫維持会 …… 58
Ⅷ 財団法人東洋文庫附置
ユネスコ東アジア文化研究センター事業 …… 59
1. 調査研究事業 …… 59
2. 学術交流及び普及，ドキュメンテーション活動 …… 62
3. 出版物の作成 …… 66
4. 業務報告 …… 69
5. 役職員名簿 …… 72

I　昭和57年度の東洋文庫

（1）

東洋文庫には二つの創立記念日がある。一つは岩崎久弥氏がモリソン氏からその蒐集の図書を購入せられた大正６年（1917）８月 29 日，もう一つは岩崎久弥氏がモリソン氏の蒐集にその後蒐めたところを加えられたものを中心とし，これを収納する書庫，附属の建物とその敷地，運営に要する基金を併せ寄贈して財団法人東洋文庫を設立せられた大正13年（1924）11月19日である。

前者はモリソン文庫と呼ばれたが，57個の木箱に梱包して，まず貨車で北京から天津に送られ，そこで日本郵船の高砂丸に積み替えられた。船が横浜に着いたのは９月26日。直ちに鉄道で東京に運び，深川の三菱倉庫に収められた。

モリソン氏にその蔵書売却の計画のあることを逸速く聞出し，その是非購入すべきことを時の横浜正金銀行頭取井上準之助氏に勧めたのは，モリソン氏と親交のあった小田切萬寿之助氏である。小田切氏はもと外交官，上海駐在の総領事として明治37，８年戦役即ち日露戦争に列国の動向を探索することに不休の活動を続け，ついに健康を損じて外務省を退官したが，その豊富な支那の実務に関する経験，支那の政治経済界の要人との幅の広い交際，そして何よりも見事な支那語の能力は，日本の支那大陸への進出の経済的支柱をなしつつあった横浜正金銀行のかねて注目しつつあったところで，氏は明治38年（1905）12 月迎えられて顧問となり，ついで同行取締役として，はじめ満州に，ついで北京に在って多くの借欵交渉に関係していた。中華民国成立（1912）と同時にその顧問として借欵交渉の事務に当っていたモリソンと親交を結ぶに至ったのは，その仕事の関係からである。

モリソン氏の言い値は英貨３万５千ポンド。岩崎氏はその言い値で買入れた。丸の内の三菱本社の事務所を訪ねた井上氏は，たまたま階段を降りてくる岩崎氏に出会い，せいぜい数分の立ち話で買入れが決った。後年，東洋文庫の理事長となった井上氏は，この時ほど愉快に感じたことはないと述懐されていたそうである。

小田切氏の敏速な通報と，井上氏の間髪をいれない処置と，モリソン文庫の重要性を理解して直ちに購入に踏切った岩崎氏の果断とが，多くの競争者をしりぞけてこの貴重な文献の蒐集を日本にもたらしたのである。それは日本の東洋学研究史上の画期的事件であった。日本の東洋学は，モリソン文庫の将来を機に新しく，そして大きく発展したのである。

支那との古くからの交渉，支那の学問が正式の学問とされて来た長い伝統を背景として，漢籍については中央・地方の諸機関及び個人に多くの蒐集があった。しかし，支那に関する欧文の書籍については，纒った蒐集は全くなかったといってよい。それがモリソン文庫の渡来によって，一挙に人々の手の届く所に置かれたのである。

モリソン文庫が丸の内に置かれたことが知られると，国内の学者はいうに及ばず，国外からも閲覧に来る人が跡を絶たなかった。岩崎久弥氏が財団法人東洋文庫を設立して，モリソン文庫を基礎に大アジア図書館を作ろうとしたのは，そうした図書館がそれまで日本になか

ったことと，その利用を一層盛んにするためとであった。

しかし，東洋文庫は単なる図書館ではなかった。それは研究活動を主体とする研究所で，図書館はその附属にすぎないという組織のものであった。これは専ら白鳥庫吉博士の構想によるものである。欧州の諸国にある東洋学研究所を実地に利用したことのある博士は，こうした研究所をわが国に開設する必要を切に感じていた。それが今，東洋文庫として実現したのである。

（2）

今日でこそ日本の公私の諸大学には多くの東洋学関係の講座が置かれ，関係の図書は図書館にも研究室にも充満している。中には付置の東洋学研究所の設けられているところも少くない。しかし，大正13年財団法人東洋文庫が発足した頃は，東洋文庫が唯一の東洋学研究所といってよかった。そして岩崎氏の寄贈せられた2百万円の基金から生ずる利息は，東洋文庫の運営を極めて豊かなものにしていた。図書の蒐集，学術業績の刊行，内外の研究機関，個人学者への刊行物の寄贈，そのどれを採上げてみても，東洋文庫に比肩し得るところは他になかったと言って過言ではない。

その豊かな財政が一転して暗澹たる様相を呈するに至ったのは，終戦の際，南満州鉄道株式会社の株券に代られていた基本金が無価値になった時である。しかし，戦前の東洋文庫の成績はなお内外の多くの機関や個人によってよく記憶せられていた。東洋文庫は健在なりやの問合せとともに，内外の民間諸財団の援助，三菱銀行と三菱系を主軸とする諸会社の好意によってつくられている東洋文庫維持会，日本船舶振興会，日本政府，その他幾多の機関や個人から多くの寄附が寄せられた。こうして終戦とそれに続く第一回の財政的危機は切抜けられたのである。

しかし，所謂石油ショックに続いて起り，今日もなお続いている経済情勢の不振は，その影響する所極めて深刻である。それは法人・個人を問わず，すべてから，他機関・他人を大規模に援助する余裕を失わしめつつある。こうした時期に東洋文庫のような機関の必要性を認め，これを存続し，これを振興せしめることが，日本の，更には人類全体の文化の発展に資することを理解してくれる大活眼の士の出現を期待することは，不可能ではないにしても頗る困難であることに疑問はない。

財団法人東洋文庫の長所は，それが民間の機関として極めて柔軟な活動性を有っていることである。終戦後の東洋文庫の活動は，例えば刊行物の種類の減少に見られるように，漸次鈍っていることは否めない。しかし，それに財力を与えれば美事な成績の復活を期待できることは，戦前の活動が十分に示しているであろう。

時艱にして英傑を思うという語があるが，我々は今にして岩崎久弥氏の実業人としての，否，人間としての見識の高さを懐わざるを得ない。岩崎氏のモリソン文庫の購入，それを中軸としての財団法人東洋文庫の設立は，氏に財力があったからばかりではない。氏がその財力を如何に活用するのが人間の文化の発展につながるかを知っていたからである。

Ⅱ 図 書 事 業

1. 図書資料の収集

購入・交換・受贈によって収集した資料は，一般文献資料のほか，中央アジア特別研究資料・東アジア特別研究資料・西アジア特別研究資料があり，昭和57年度末現在の蔵書数は632,561冊となった。

・資料購入

	和漢書	洋書	複写資料	計
一般文献資料	128	70	0	198
中央アジア特別研究資料	7	387	0	394
東アジア特別研究資料	1,874	71	0	1,945
西アジア特別研究資料	0	370	3	373
計	2,009 冊	898 冊	3 冊	2,910 冊

・資料交換

	受贈			寄贈		
	和漢書	洋書	計	国内	国外	計
単行本(冊)	1,260	450	1,710	1,893	678	2,571
定期刊行物(冊)	4,587	1,240	5,827	256	498	754
	5,847	1,690	7,537 冊	2,149	1,176	3,325 冊

2. 図書資料の保存整理

・製本数量

本年度の製本施工数量は下記の通りである。

区分	単行本	定期刊行物	複写資料製本	複写資料製帙	その他
数量	450冊	1,764冊	76冊	38冊	159冊

・撮影・焼付

区分	撮影コマ数	焼付引伸数	ポジ・フィルム作成
数量	15,683コマ	45,845枚	1,010コマ

3. 図書資料の閲覧

・図書利用状況

本年度の所蔵図書の利用ならびに内訳は次の通りであった。

月	開館日数	閲覧者数	一日平均	昨年同月との比(△印は減)	閲覧図書数	一日平均	昨年同月との比(△印は減)
	日	人	人	人	冊	冊	冊
4	22	230	10 強	△ 55	3,292	150 弱	△ 63
5	23	329	14 強	△ 102	5,146	224 弱	△ 1,386
6	25	309	12 強	△ 126	3,629	145 強	△ 1,442
7	26	457	18 弱	△ 14	5,314	204 強	△ 457
8	25	517	20 強	△ 40	7,104	284 強	△ 3,332
9	23	415	18 強	△ 33	5,953	259 弱	178
10	24	375	16 弱	△ 80	4,681	195 強	△ 2,730
11	22	415	19 弱	30	5,388	245 弱	△ 1,910
12	22	350	16 弱	1	3,541	161 弱	△ 1,103
1	21	226	11 弱	△ 6	3,823	182 強	464
2	22	457	21 弱	194	8,781	399 強	5,722
3	8	305	38 強	△ 22	6,241	780 強	529
計	263	4,385			62,893		

・閲覧図書数内訳

月	和書		漢書		洋書		合計	
	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数
4	121	270	421	2,798	125	224	667	3,292
5	285	602	706	4,078	197	466	1,188	5,146
6	242	418	570	2,798	224	413	1,036	3,629
7	265	393	835	4,385	294	536	1,394	5,314
8	334	621	1,020	5,481	623	1,002	1,977	7,104
9	249	334	842	5,148	298	471	1,389	5,953
10	344	649	639	3,626	236	406	1,219	4,681
11	267	438	761	4,396	290	554	1,318	5,388
12	281	432	541	2,485	287	514	1,109	3,431
1	194	352	570	3,234	122	237	886	3,823
2	272	433	1,115	7,490	497	858	1,884	8,781
3	140	353	440	5,075	444	813	1,024	6,241
計	2,994	5,295	8,460	50,994	3,637	6,494	15,091	62,783

書庫・事務棟の増改築後の移転作業のため，昭和58年3月10日より閲覧業務を休止した。

4. 資料複製増刷サービス

国内外の研究者・研究機関の閲覧・利用の便に供するために行なったもので，実績は下記の通りであった。

・マイクロ・フィルム

申込件数	撮影コマ数	焼付引伸枚数	ポジ・フィルム
977件	102,887コマ	141,235枚	99,938コマ

・電子複写

申込件数	撮影枚数
1,326枚	80,812枚

Ⅲ　研 究 事 業

1. 調 査 研 究

調査研究は，文部省科学研究費補助金によるものと，国庫の補助金による一般・特別調査研究とにわかれる。

ⅰ　文部省科学研究費による調査研究

一 般 研 究 （A）

【課　題】 ユーラシア社会史における遊牧・農耕及び通商に関する基礎的研究

【期　間】 昭和57年度（3ヶ年継続事業初年度）

【目　的】 ここでいうユーラシア，すなわち・中央アジア・西アジア・南アジア・東アジア及び東ヨーロッパという，各地域に関する個別の歴史学的・文献学的研究は，我が国においても近年とくに著しく発展し，世界のレベルをリードする分野も少くない。しかし，これらの地域の歴史は，決して孤立して展開してきているわけではなく，相互に強い影響を与えあって現代に至っていることは疑いない。加えて，近年の各国における実地調査の成果も活発に現われはじめ，ユーラシア地域に共通する社会史上の諸要素が抽出されてきている。そこで，本研究では，その諸要素のうち，現代に至るまでの時代を通じるものとして，遊牧・農耕・通商の3点に注目した。この観点に立って，まず第一に，近代以後に刊行された各地域における現地調査に関する文献と，その基礎となる現地語を中心とした資料の調査と研究を行い，現在わが国に存在しないものを中心に収集に務める。第二に，近代以前に溯って，同じくこのテーマに関する基本文献の調査研究及び収集を行なう。財団法人東洋文庫は，既にユーラシア地域研究の一大センターとして機能しているが，その充実と，今後ますます増加すると思われる研究者への便宜のために，本研究の最終目的は，今後のわが国及び外国のユーラシア社会史研究にとつて着実で実効のある指針を提示し，かつ，収集した資料・図書を整理したうえで公開する，という二点にある。

【事　業】 上記の目的に沿って，以下の研究実施計画を行なった。

(1) 近代以後に刊行された各地域における現地調査に関する文献と，その基礎となる現地語を中心とした資料の調査と研究を行ない，現在我が国に存在しないものを中心に収集し，文献整理カード化した。

(2) 近代以前に溯って，同じくこのテーマに関する基本文献の調査研究及びマイクロ・フィルム資料を含めた資料の収集を行ない，同じく文献整理カードを作成し，ともに一般公開できるように整備した。

(3) 随時に，研究会を催し，各分担研究者の調査・研究の成果，及び収集された資料に基づいて相互討論を重ね，ユーラシア社会史研究の方法・キーポイントを一層鮮明にすることができた。

【代表者】 榎　一雄

【分担者】 統　　括：榎　一雄
北アジア班：松村　潤，岡田英弘，護　雅夫
東　欧　班：護　雅夫，永田雄三
西アジア班：永田雄三，後藤　明，志茂碩敏
東アジア班：神田信夫，田中正俊
中央アジア班：榎　一雄，梅村　坦

ii　一般調査研究

本年度は，特に，中央アジア・イスラム研究委員会，明代史研究委員会を中心に調査研究を行なった。

東亜考古学研究委員会

【資料の整理】 梅原末治評議員（京都大学名誉教授）の寄贈にかかる東亜考古学資料（写真，実測図，拓本，野帖等）の整理とその目録の作成。（特に，日本の部，中国の部の青銅器資料の整理とその目録の作成を行なった。）（編集済）（前年度の継続）

古代史研究委員会

【資料の整理】 東洋文庫所蔵中国画像名，造像名，墓碑銘等拓本の研究整理。

唐代史（敦煌文献）研究委員会

【資料の収集・整理・研究及び情報提供】 (1) 国内国外に現存する西域出土古文書の所在調査と，マイクロ・フィルムによるその収集・整理。

(2) 内外の諸機関，研究者に対する既収集敦煌文献資料の公開，情報の提供。

(3) 内陸アジア出土古文献研究会の開催。（以上，前年度の継続）

第1回　5月15日（土）　佐藤道郎「敦煌仏教と五台山」

第2回　7月3日（土）　池田　温「敦煌・吐魯番関係近刊数種」

広川堯敏「三階教と浄土教との交渉── 敦煌出土七階仏名教を中心として── 」

第3回　11月6日（土）　池田　温「敦煌・吐魯番研究文献二，三」

第4回　11月20日（土）　中野照男「中央アジア美術に関する近刊の紹介」

荒川正晴「新彊歴史論文続集」

第5回　12月4日（土）　池田　温「敦煌関係近刊論文紹介」

梅村　坦「東京国立博物館所蔵ウイグル銘文木片と大谷探検隊」

第6回　2月5日（土）　金岡照光「近五年敦煌文学文献研究一瞥（付言語研究）」

第7回　2月26日（土）　平井宥慶「南北朝期教典注釈書の研究── 敦煌仏教文献（漢文写本）研究の展望をかねて── 」

宋代史研究委員会

【資料の整理・研究及び情報活動】 (1) 宋代研究文献目録及び速報の作成。

(2) 『宋会要輯稿』食貨之部の要項及び語彙索引の作成。（以上，前年度の継続）

明代史研究委員会

【研究・整理】 (1) 『令梅治状』を主として，明代社会制度に関する文献の講読・研究。（毎月2回研究会の開催）（前年度の継続）

(2) 『東洋文庫所蔵明代方志解題』の作成。

清代史（満州・蒙古）研究委員会

【研究・整理】 (1) 「旧満洲檔」・「満文老檔」記事対照表の作成。

(2)「年羹堯奏摺」満文の訳注。

(3) 『東洋文庫所蔵鑲紅旗檔 ── 乾隆朝(1)── 』の編集・刊行。（刊行済）（以上，前年度の継続）

近代日本研究委員会

【資料の収集・研究】 近代化過程における欧米列強と東アジア乃至日本との国際関係，および近代日本と大陸諸民族との国際関係について，国際政治のみならず，国際経済の資料をも収集し，これらの世界史的性格を総合的に研究する。

朝鮮研究委員会

【資料の整理・研究】 (1) 李氏朝鮮の財政・民政関係資料及び外交文書資料の講読・研究。（毎週研究会の開催）（前年度の継続）

(2) 漢字の朝鮮音韻の調査・研究。

中央アジア・イスラム研究委員会

【資料の収集・研究】 (1) 『東洋文庫所蔵アラビア語・トルコ語・オスマントルコ語関係資料の増補目録』の作成。

(2) 『日本におけるペルシャ語文献総合目録』の作成。

(3) イスラム国家論・都市論の月例研究会の開催。（以上，前年度の継続）

第1回	5月28日（金）	鈴木　董「オスマン朝のパシャたち── 回暦700年から1200まで── 」
第2回	7月2日（金）	熊谷哲也「ファーティマ朝末期の軍事勢力」
第3回	9月25日（土）	高山　博「12世紀シチリアにおけるノルマンの財務行政機構」
第4回	10月29日（金）	林　　徹「トルコ語の東黒海地方の方言について」
第5回	11月26日（金）	官武志郎「14～15世紀におけるオスマントルコへの大砲の移入について」
第6回	12月17日（金）	花田宇秋「（問題提起）シンポジウム・王朝最後の戦い── 王朝が滅びる時── 」
第7回	1月28日（金）	竹下政孝「初期シーア派の異端・ハッターブ派の思想と影響」
第8回	2月25日（金）	斉藤正樹「チュニジア留学記」

(4) 隊商貿易史の研究。

(5) 中央アジア・トルコ諸民族史の研究。

(6) イスラム社会の構造の研究。

(7) トルコ日本両国の近代化の比較研究。

南方史研究委員会

【資料の整理・研究】 (1) 東洋文庫所蔵南アジア史関係資料の整理・研究とその分類の作成。（前年度の継続）

(2) インド古代社会に関するサンスクリット語・パーリー語・漢文資料を，マイクロフィルム，その他によって網羅的に収集し，その調査，分類を行なう。

iii　特別調査研究

チベット特別調査研究（チベット研究委員会）

【目　　的】 チベット人との協同によるチベットの歴史・言語・宗教・社会の総合的研究
【研究課題】 チベット語文語辞典の編纂
【事業内容】
(1) チベット語文語辞典編纂のための調査・研究
①前年度に引続き，トゥカン「一切宗義」ゲルク派の章のテキスト・邦訳を整備した。
②トゥカン「一切宗義」ニンマ派の章，及び「敦煌出土チベット年代記」のテキストの文・単語への分割を進めた。
③「3世ダライラマ年代記」，「勝鬘経」,「般若心経」，「中論」の機械処理を進めた。
(2) チベット語関係文献の整理
(3) 研究成果の刊行
①『スタイン蒐集チベット語文献解題目録── 第7分冊── 』 B5判　1冊　(刊行済)
②『Texts of Tibetan Folktales (Ⅲ)』(『チベット民話資料集(Ⅲ)』) B5判　1冊　(刊行済)
(4) チベット学に関する研究会の開催

近代中国特別調査研究 (近代中国研究委員会)
【目　　的】 近・現代中国研究関係資料の収集・整理とこれらの資料の書誌的研究。
【研究課題】 近・現代中国研究関係資料の書誌的研究。
【事業内容】
(1) 共同利用研究
本年度上半期は，中国社会科学院歴史研究所の周　遠廉副研究員を受入(昭和57年4月～7月)れて，中国近代史研究，殊に中国における清朝の旧満洲檔案の所在並びに研究・整理状況について，また，下半期には，日本学術振興会の依頼に基づき，中国社会科学院近代史研究所の栄　孟源研究員等と情報交換を行なった。
(2) 情報交換及び参考業務 (近代中国研究事務室及び同参考図書室に於て，常時遂行)
(3) 図書・資料の収集

区　　分	和漢書	洋　　書	複写資料
数　　量	796冊	180冊	7 リール

(4) 研究成果の刊行
①『近代中国研究彙報　第5号』 A5判　1冊　(刊行済)
(5) 中国共産党史資料の書誌的研究及びその他収集した近・現代中国関係資料の整理・研究。
(6) 清末外交文書研究会の開催。(以上，前年度の継続)
(7) 近・現代中国に関する新聞報道の研究。

ⅳ　研究委員会

研究部の研究事業を企画実施する研究委員会は，５部門12研究委員会にわかれる。昭和57年度の各研究委員会の常任委員は以下のとおりである。

第１部　中国研究

東亜考古学：梅原末治，小山　勲，関野　雄，渡辺兼庸

古代史：越智重明，宇都木　章，神矢法子，河野六郎，渡辺兼庸

唐代史（敦煌文献）：榎　一雄，池田　温，菊地英夫，土肥義和，藤枝　晃，松本　明

宋代史：青山定雄，草野　靖，佐伯　富，斯波義信，周藤吉之，竺沙雅章，中嶋　敏
古垣光一，渡辺紘良

明代史：鈴木立子，田中正俊，鶴見尚弘，山根幸夫

近代中国：市古宙三，河鰭源治，滋賀秀三，田中正俊，坂野正高，本庄比佐子，山根幸夫
臼井佐知子

第２部　近代日本研究

近代日本：岩生成一，海野一隆，亀井　孝，酒井憲二，田中時彦，鳥海　靖

第３部　東北アジア研究

満州・蒙古（清代史）：榎　一雄，岡田英弘，神田信夫，松村　潤

朝鮮：河野六郎，末松保和，田川孝三，森岡　康，古屋昭弘

第４部　中央アジア・イスラム・チベット研究

中央アジア・イスラム：榎　一雄，梅村　坦，後藤　明，佐藤次高，清水宏祐，志茂碩敏
永田雄三，花田宇秋，本田實信，護　雅夫，八尾師　誠

チベット：榎　一雄，川崎信定，北村　甫，松濤誠達，山口瑞鳳，テンパ・ゲルツェン

第５部　インド・東南アジア研究

南方史：荒　松雄，生田　滋，岩生成一，榎　一雄，後藤均平，原　實，三根谷　徹
山崎元一，山本達郎

2. 学術図書出版

東洋文庫欧文紀要

"Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko."　No. 40.

1982 年刊　B 5 判　196 頁

東洋文庫和文紀要

『東洋学報』第64巻第1・2号　昭和58年1月刊　A 5 判　230頁

『東洋学報』第64巻第3・4号　昭和58年3月刊　A 5 判　215頁

東洋文庫各種研究委員会刊行物

清代史（満・蒙）研究委員会

『鑲紅旗檔——乾隆朝（I）——』　昭和58年3月刊　B 5 判　177頁

近代中国研究委員会

『近代中国研究彙報』第5号　昭和58年3月刊　A 5 判　89頁

チベット研究委員会

『スタイン蒐集チベット語文献解題目録』第7分冊　昭和58年3月刊　B 5 判　128頁

『Texts of Tibetan Folktales（Ⅲ）』（『チベット民話資料集（Ⅲ）』）　昭和58年3月刊　B 5 判　173頁

東洋文庫諸目録其他刊行物

『東洋文庫新着図書目録——和書・中国書・朝鮮書——』第30号　（1981年4月～1982年3月）　昭和57年9月刊　B 5 判　65頁

『財団法人東洋文庫書報』第14号　昭和58年3月刊　A 5 判　147頁

『財団法人東洋文庫年報』昭和56年度版　昭和57年9月刊　A 5 判　82頁

3. 講 演 会

春期　東洋学講座（第335～338回）

（テーマ；イスラーム世界）

黒柳恒男　「ペルシャ文学におけるイスラーム」（6月1日）

日野舜也　「アフリカにおけるイスラーム世界」（6月8日）

本田實信　「イラン・シーア派の成立」　（6月15日）

中田吉信　「少数者としての中国ムスリム」　（6月22日）

秋期　東洋学講座（第339～342回）

（テーマ；中国の思想と文化）

金谷　治　「『管子』の文献此判── 時令思想を中心に──」（10月5日）
山井　湧　「中国哲学における「理の哲学」と「気の哲学」」（10月12日）
尾崎　康　「宋元版をめぐって── 正史を中心に──」　（10月19日）
戸川芳郎　「経学と説話── 再論「解鳥語」──」　（10月26日）
（なお，春秋二期の各講演の要旨は，『東洋文庫書報』第14号に掲載されている。）

特別講演会

周　遠廉　「新発見の明清檔案── 屛風檔，信牌檔与乾隆期朝刑科題本──」
（6月26日）
G. Kara「Uigur Studies in Hungary（ハンガリーに於けるウイグル研究）」
（11月15日）

4. 研究会（東洋文庫談話会）

池田　温　「敦煌・吐魯番関係近刊数種」（7月3日）
相田　洋　「宝巻と金蘭会── 中国女姓史の周辺──」（2月19日）
臼井佐知子　「天平天国期の地方財政問題」　（2月26日）
古屋昭弘　「六朝隋唐時代の字書・韻書について」　（3月5日）
（なお，この談話会発表要旨は，『東洋文庫書報』第15号に掲載されている。）

5. 研究者養成

中国研究　古屋昭弘　「中国語の音韻史的研究
──主として六朝・隋唐の字音を中心に──」
中国研究　臼井佐知子　「清代における地方財政と権力関係及び市場構造問題」
西アジア研究　八尾師　誠　「20世紀初頭のイランにおける立憲革命」

6. 国内・国外研究者への便宜供与

ⅰ　国内研究者の受入

文部省内地研究員　福岡教育大学助教授　相田　洋　「明代白蓮教史の研究」
（昭和57年度下半期）

ⅱ　外国人研究者の受入

Tenpa Gyaltsen　東洋文庫招聘研究員（Gomang寺ゲルク派学僧）「東洋文庫チベット研究委員会による『チベット語文語辞典』の編纂協力」（昭和54年度以降）

周　遠廉　中国社会科学院歴史研究所副研究員　「旧満洲檔の研究」（昭和57年度日本学術振興会の招聘による。昭和57年4月以降120日間）

李　佑成　大韓民国元成均館大学校教授　「律令制をはじめとする韓国前近代史研究」（昭和57年度国際交流基金の招聘による。昭和57年6月以降9ヶ月間）

閔　斗基　大韓民国ソウル大学校教授　「日本文化伝統研究── 中国文化伝統研究への比較史的アプローチのために──」（昭和57年6月22日以降約2ヶ月間）

金　公七　大韓民国済州大学校助教授「日本語音韻論及び韓日両語文法の対照的研究」（国際交流基金の依頼による。昭和57年8，9月の2ヶ月間）

iii　外国人・外国人研究者への便宜供与

Australia

陳　万成	Australian National Univ. 大学院生

Canada

Daniel Bryant	University of Victoria
Masako Watanabe	University of British Columbia 大学院生

France

Alberte Rabiller	University of Nantes
Philippe Aguignier	Université Paris Ⅶ大学院生
Jikō Kyōdō	Professeur, Collége de France, Institut d'Asie, Hautes Études Japonaises

Hungary

György Kara	Head, Department of Central Asian Studies, Budapest Eötvös Loránd University

Iran

Hashem Rajabzade	Dr., The First Secretary, the Ministry of Foreign Affairs (Prof., Tokyo Univ. of Foreign Studies. Department of Persian Studies)

Italy

Italo Maria Molinari	Istituto Universitario Orientale Napoli

Paolo Santangelo	Istituto Universitario Orientale Napoli

Korea

李　公範	成均館大学校教授
徐　坰遥	〃　〃
姜　信沆	〃　〃
李　英命	〃　〃
崔　鶴根	ソウル大学校教授
李　光奎	〃　〃
朴　泰根	明知大学校教授
成　百仁	〃　〃
呉　享根	東国大学校教授
曹　永禄	〃　〃
金　英培	〃　助教授
成　炳禧	安東大学校教授
金　興圭	高麗大学校教授
河　炫綱	延世大学校教授
柳　仁熙	〃　〃
韓　基斗	円光大学校教授
全　海宗	西江大学校東亜研究所教授
尹　炳奭	仁荷大学校文科大学学長，教授
李　錫麟	栄州経商大学校教授
金　大煥	韓国精神文化研究院大学院院長
黄　性模	〃　研究部長,同院附設韓国学大学院教授
金　烱孝	〃　附設韓国学大学院教授
権　兌遠	忠南大学校教授
金　敬泰	梨花女子大学校教授
南　豊鉉	檀国大学校教授
金　膺顕	東方研書会会長，韓国篆刻学会会長
権　昌倫	洌上書壇理事長
金　瑞鳳	同徳女子大学校教授
柳　鐸一	釜山大学校教育大学院教授
李　東英	〃　師範大学副教授
都　珖淳	漢陽大学校教授，韓国人文科学研究所所長

金　泰　坤	慶熙大学校教授
崔　信　浩	聖心女子大学校（教授）
権　重　達	中央大学校教授

People's Republic of China（中華人民共和国）

郭　豫　明	上海師範学院副教授
段　文　傑	敦煌文物研究所所長
史　葦　湘	〃　資料室主任
趙　友　賢	甘粛省文化局副局長
史　樹　青	中国歴史博物館副研究員
鄒　有　恒	東北師範大学外国問題研究所所長，教授
呼格吉勤図	内蒙古大学蒙古語文研究室（研究員）
溥　衣　凌	廈門大学歴史系教授
程　万　里	北京大学亜・非研究所副所長，教授
鄧　紹　基	中国社会科学院文学研究所副所長，学術委員
呉　世　昌	〃　〃　研究員　〃
蔣　和　森	〃　〃　副研究員
劉　世　徳	〃　〃　〃
解　莉　莉	〃　〃　外事局亜非処員
辛　冠　洁	〃　哲学研究所中国哲学史研究室主任
哀　爾　鉅	〃　〃　〃　副主任
馬　振　鋒	〃　〃　助理研究員
勝　　　顥	〃　〃　〃　所員
袁　英　光	華東師範大学副教授
陳　伯　海	上海師範学院　〃
田　　　垣	中国社会科学院日本研究所（研究員）
郭　庶　英	郭沫若著作編集委員会委員
陳　泊　微	人民日報東京支局長
田　汝　康	中国社会科学院古脊椎動物及古人類研究所副所長
愈　辛　焞	南開大学副教授
劉　夢　吉	中国国際書店
倪　其　怒	〃
胡　起　望	中国民族学院民族研究所講師
索　文　清	〃　〃　〃
栄　孟　源	中国社会科学院近代史研究所研究員

章　伯　鋒	中国社会科学院近代史研究所副研究員
李　秀　石	〃　〃　所員
李　徳　純	〃　外国文学研究所研究員

Republic of china (中華民国)

劉　顕　叔	国立中央図書館主任，中国文化大学史学系副教授
蘇　精	〃　館員
昌　彼　得	国立台湾大学文学院教授,国立故宮博物院図書文献処処長
陳　捷　先	〃　教授
許　沢　銘	国立台湾教育学院教授
林　宝　貴	〃　助教授
戴　瑞　坤	台湾国立中興大学助教授

Republic of India

Subhas C. Biswas	Librarian, Central Secretariat Library, Ministry of Education and Culture, Government of India

Singapore

関　笑　卿	National University of Singapore 講師

Sweden

趙　承　福	Professor, Director of the Institute of Oriental Languages, University of Stockholm

U. S. A.

Keenan Barry	Associate Professor, Denison University
Richard Von Clann	Yale University 大学院生
銭　立　方	Harvard University 大学院生
Linda Walton	Professor, Department of History, Portland State University
Edward Davis	University of California, Berkeley Campus 大学院生
エルマン　ベンジヤミン	Professor, Colby College, Maine
ブレンダ　サムソン	University of Wisconsin 大学院生
Stephen Roddy	Graduate Student, Department of East Asian

	Studies, Princeton University
謝　碧霞	Graduate Student, Department of East Asian Studies, Princeton University
Louisa Schein	Samuel T. Arnold Research Fellow, Brown University
Ned Davis	Department of History, University of California, Berkeley 大学院生
John G. Hangin	Prof., Indiana Univ.
Calla Wiemer	Prof., University of Wisconsin
Kathy Bernharat	Stanford Univ. 大学院生
Sun Lungkee	〃　〃

U. S. S. R.

Eugeni I. Lubo-Lesnitchenko	Dr., Chief of Far-Eastern Section, Hermitage Museum, Leningrad
Michail V. Kryukov	Dr., Chief of Department of Asian Ethnology, Institute of Ethnology, U. S. S. R. Academey of Sciences, Leningrad

7. 職員の研究業績

期間 :昭和 57年 4月 1 日～昭和58年 3月31日まで

略号 :① … 著書 ② … 編書 ③ … 論文 ④ … 学会動向 ⑤ … 書評・紹介 ⑥ … 翻訳
⑦ … 講演・研究発表 ⑧ … その他（評論・雑記・座談会等）

荒 松雄

②〃Japanese studies in Ancient and medieval Indian History〃(Acta Asiatica No. 43 , The Tōhō Gakkai Tokyo , 1982 , 114p.),③〃The Lodhī Rulers and the Construction of Tomb-Buildings in Delhi〃(Acta Asiatca No, 43, PP,61～80), ④〃Outline of Surveys and Studies of the Architectural Remains of the Delhi Lultanate Period〃（月輪時房氏と共同執筆, Acta Asiatica No. 43 , PP. 92～102)。

池田 温

③「口馬行考」(『佐久間重男先生退休記念中国史・陶磁史論集』, 31～57頁, 燎原書店, 1983年3月 , ④「出土文物による最近の唐代史研究」(『中国歴史学界の新動向』,133～156頁, 刀水書房, 1982 年5月)，「中国における出土文字資料整理研究の近況 ― 国家文物局古文献研究室の活動 ― 」(東方学64 , 162～72頁, 1982年7月) , ⑤「関野雄監訳『中国考古学の三十年』」(史学雑誌91－7, 103～4頁 , 1982年7月), 「顧頡剛著, 小倉芳彦訳『西北考察日記』」(史学雑誌91－9, 104～5頁, 1982年9月)，「『中国歴史学年鑒1981』」(東方23 , 1～4頁, 1982年9月)，「陳正祥編, 梅村坦訳『中国歴史・文化地理図冊』」(中学雑誌91－12 , 91～2頁, 1982年12月)，「敦煌文物研究所新刊両種」(季刊東西交渉4 , 32～4頁, 1982年12月) , 「『史学情報』の発刊」(東方25 , 5～7頁, 1983年1月),「岡野誠「唐代における死刑覆奏について」」(法制史研究32 , 309～10頁, 1983年3月)，「 滋賀秀三「唐代における律の改正をめぐる一問題」」(法制史研究32, 310～11頁 , 1983年3月) , ⑥「中国における漢籍センサスへの展望 ― 胡道静氏建議の紹介 ― 」(センター通信23 , 4～11頁 東京大学東洋文化研究所東洋学文献センター, 1983年3月) , ⑦「麹氏高昌国土地制度の性格」(史学会大会報告 , 1982年11月14日 , 要旨 :史学雑誌91 －12 , 81 頁) , ⑧「正史のできるまで ― 唐書を例として ― 」(『中国の歴史書』<漢文研究シリーズ12> 43～53頁, 尚学図書, 1982年5月)，「仁井田陞『唐令拾遺』(再刊) 後跋」(東大出版会, 巻末1～2頁, 1983年1月)，「仁井田陞『唐宋法律文書の研究』(再刊) 補訂表, 後跋」(東大出版会, 巻末1～8頁, 1983年2月)，「仁井田陞『中国身分法史』(再刊)

補訂表」（東大出版会，巻末1～5頁，1983年2月），「続日本紀注釈参考海外史料輯録稿」（『続日本紀を中心とする8世紀史料の編年的集成とその総合的研究』，東大国史研究室，43～55頁，1983年3月）。

岩生成一

⑤田代和代著『近世日朝通交貿易史の研究』（日本歴史409，100～102頁,吉川弘文館，1982年6月），⑧「海外文書館の思い出あれこれ」（『近代文書学への展開』，215～229頁，柏書房，1982年6月），「大震災前後よもやま話」（日本歴史400，12～41頁，吉川弘文館，1982年9月），「田保橋さんの思い出」（東方学65，23～24頁，東方学会，1983年1月）。

臼井佐知子

⑦「太平天国期の地方財政問題 ― 江蘇省の場合 ― 」（東洋文庫談話室，1983年2月26日，要旨：東洋文庫書報15）⑧「中国近現代史文献解題（7）：≪何烈『清咸，同時期的財政』，国立編繹館中華叢書編審委員会発行，1981年≫，≪彭澤益「十九世紀五十至七十年代清朝的財政危機和財政搜刮的加劇」，歴史学1979年第2期≫，≪彭澤益≫「清代軍需奏銷統計」，中国社会科学院経済研究所集刊3，1981年≫，≪劉克祥「太平天国後清政府的財政〝整頓〞和搜刮政策」，中国社会科学院経済研究所集刊3，1981年≫」（東方24，18～21頁，東方書店，1982年11月）。

梅村　坦

⑥「陳正祥編著『中国歴史・文化地理図冊』」（原書房，1982年4月，190頁），⑦「Bir uygur belgesi üzerine:13. yüzyilindaki Uygur〝Devleti〞ve〝kişisi〞」（アンカラ大学講演会，1982年4月23日），「アンカラ・ベルリン近況」（第19回野尻湖クリルタイ，1982年7月20日），「東京国立博物館所蔵ウイグル銘文木片と大谷探検隊」（内陸アジア出土古文献研究会，1982年12月4日，於東洋文庫）。

海野一隆

③オルテリウスとシナ図 ― 大航海時代における地図作りの舞台裏 ― 」（図書393，33～39頁，岩波書店，1982年5月），「漢民族の地理思想 ― 特にその地勢観について ― 」（京都大学文学部地理学教室編『地理の思想』，69～80頁，地人書房，1982年11月），⑦「楊子江と洋子江」(中国歴史地理学術討論会，上海,1982年9月2日)，「日本人と地図」（岡山県立博物館，1982年10月16日），⑧「"つぼのいしぶみ"の正体」（PINUS 6，1～4頁，雄松堂書店，1982年9月），「洋子江と揚子江」（近畿七高会会報10，24～27頁，1982年10月），「鹿児島のある初期の西洋製日本地図」（弓友だ

より5，85～88頁，七高造士館弓友会，1982年10月），「インド人の宇宙観・中国人の宇宙観」（杉浦康平構成・岩田慶治監修『アジアのコスモス・マンダラ』，157～159頁，講談社，1982年11月），「故室賀信夫先生と地図学史」（地図20－3，28～29頁，日本国際地図学会，1982年9月）。

榎　一雄

③「もう一つのシルクロード ― 東西交通路としての南アフガニスタン ―」（季刊東西交渉1－2，15～22頁，井草出版，1982年6月），「徐松の西域調査について（二）」（近代中国研究11，147～168頁，巌南堂書店，1982年9月），「張騫の鑿空」（季刊東西交渉1－4，16～21頁，1982年12月），「史記大宛伝と漢書張騫・李広利伝との関係について」（東洋学報64－1・2，1～32頁，東洋文庫，1983年1月），「魏志倭人伝とその周辺 ― テキストを検討する ―」（季刊邪馬台国15，8～20頁，梓書院，1983年3月），「黎軒・條支の幻人（一）」（季刊東西交渉2－1，12～19頁，1983年3月），④「漢書西域伝の研究 ― フールスウェ・岑仲勉両氏の近業を中心として ―」（東方学64，130～140頁，1982年7月），「イスラム百科辞典の系譜 ― イフワーン＝アス＝サファーとデルブローとを中心として ―」（東方学65，144～167頁，1983年1月），⑤「邪馬台国に関する孫栄健氏の新説について」（季刊邪馬台国14，62～73頁，梓書院，1982年12月），「アジア香薬史研究の集大成，来歴・伝播を組織的に実証」（山田憲太郎著『南海香薬譜』＜スパイス・ルートの研究＞，図書新聞342，1983年3月5日，3頁），⑥「南蛮漂流譚（9）～（14）」（山柴水明110－115，1982年5月～1983年3月，≪Francisco Vas d'Almada, Tratado do svcesso que teve a nao S. Joam Baptista, etc., Lisboa 1625年の全訳≫），⑦「邪馬台国の謎」（朝日カルチャー教室，1983年3月1日，於横浜駅ビル），⑧「民を網するもの」（言論春秋194，1982年4月19日），「徳富氏の蒐書 ― 蘇峰堂だより ―」（汲古・創刊号，1～11頁，汲古書院，1982年5月），「愛国心」（言論春秋201，1982年6月15日），「検定教科書問題に思う」（言論春秋211，1982年8月16日），「皇清職貢図」（天理時報275，1952年8月29日），「国際人」（言論春秋223，1982年11月8日），「編輯後記」（東方学64，218頁，1982年7月，同65，196頁，1983年1月），「先学を語る ― 田保橋潔先生 ―」（東方学65，168～188頁，東方学会，1983年1月），「1982年読書アンケート」（みすず269，5～6頁，1983年1月），「研究設備の充実を」（言論春秋240，1983年3月7日），「阿部隆一博士と書誌学」（三田評論843，88～89頁，1983年3月），「小月氏和尉遅氏（上）（下）」（民族譯叢3，4，1981年），「陳俊謀著「「榎一雄与日本東方学」」（中国史研究動態10，23～28，中国社会科学出版社，1981年）。

越智重明

①『魏晋南朝の貴族制』(研文出版，1982年10月，397頁)，③「均輸法をめぐって」(古代文化35，1～12頁，古代学協会，1983年3月)，「魏晋南朝の御史中丞」(史淵120，121～150頁，九州大学文学部，1983年3月)，「七科謫をめぐって」(九州大学東洋史論集11，1～26頁，九州大学文学部東洋史研究会，1983年3月)。

神矢法子

③「礼の規範的位相と風俗」(史朋15，1～11頁，北海道大学東洋史談話会，1982年12月)。

神田信夫

②『鑲紅旗檔　乾隆朝1』(財団法人東洋文庫，1983年3月，XVII，158頁)，③"Ming and Ch'ing Documents Now Lost"(Proceedings of International Ch'ing Archives Symposium，Taipei，1982，P.162～167)，"Remarks on Emn tanggû orin sakda－i gisun sarkigan"(EMU TANGGÛ ORIN SAKDA－1 GISUIV SARKIYAN，San Francisco，1982，P.iii～IX)，⑧「文学部50周年を迎えて」(明治大学広報153，1982年9月1日)，「文学部創立50周年」(明治大学父兄会報暁の鐘16，1982年12月6日)，「入試雑感」(明治大学広報161，1983年3月1日)。

草野　靖

③「南宋財政における會子の品搭収支」(東洋史研究41－2，290～320頁，東洋史研究会，1982年9月)。

菊池英夫

④「中国封建社会理論の新展開 ― 胡如雷氏の新著に寄せて ―」(『中国歴史学界の新動向』，唐代史研究会編，唐代史研究会報告集第IV集，215～224頁，刀水書房，1982年5月)。

小山　勲

②「塚田　光著『縄文時代の基礎研究』」(渡辺兼庸他共編，縄文時代の基礎研究刊行会，1982年3月，329頁)，⑦「勝坂式土器研究 ― 型式の概要 ―」(下総考古学研究会，1981年7月18日)，⑧「塚田　光著作目録」(下総考古学研究会共編『縄文時代の基礎研究』，292～297頁，縄文時代の基礎研究刊行会，1982年3月)，「塚田　光略年譜」(同上，298～304頁)，「塚田さんを想う ― 史料館活動を共にして ―」(かみしき24－

―塚田　光氏追悼集―，２～４頁，下総史料館，1981年11月），「塚田　光さんの思い出―研究会活動を共にして―」（研究メモ184―塚田　光氏追悼特集号―，116～117頁，下総考古学研究会，1982年３月）。

後藤均平

⑤「小倉芳彦『逆流と順流』，上原淳道を読む会編『政治の変動期における学者の生き方』」（歴史学研究509，31～37頁，1982年10月），「片倉穣「罰銭小考―国朝刑律の一考察―〔東方学62〕」（法制史研究32，322～323頁，1983年３月），⑥「ユ・エル・クロル『歴史家司馬遷』の紹介」（『中国古代史研究第５』中国古代史研究会編，169～186頁，雄山閣，1982年９月）。

佐伯　富

①『宋史選挙史索引』（同朋舎出版，1982年10月，221頁），③「士大夫と書籍」（中国書論大系月報８，1982年７月，３頁）。

佐藤次高

②『イスラム事典』（嶋田　平，板垣雄三共編，平凡社，1982年４月，495頁），③「西アジアにおける中世世界の成立」（『中世史講座』１，215～239頁，学生社，1982年４月），「イスラム社会の『もてなし』と『公』」（月刊百科10，29～31頁，平凡社，1982年10月），「ムスリム都市の性格」（中東通報284，1～９頁，中東調査会，1982年9月），⑤「イブン・アブド・アッザーヒル著『バイバルス伝』の新刊行史料」（東洋学報64～1・2，191～198頁，東洋文庫，1983年１月），⑦「奴隷」（シンポジウム＜東西交渉におけるムスリム商業＞，1982年７月，87～98頁，中近東文化センター），⑧「座談会・イスラム世界と日本」（月刊百科６，平凡社，1982年６月），「生活体験をどう生かすか―『世界史（新版）』の執筆にあたって―」（歴史と地理321，65頁，山川出版社，1982年５月），「バグダードのカジノ」（季刊東西交渉５，９～10頁，井草出版，1983年３月）。

酒井憲二

②『寛永諸家系図伝　第五』（校訂協力，続群書類従完成会，1982年６月，271頁），③「わが国における実語教の盛行と終焉」（図書館情報大学研究報告１－１,1～19頁,1982年６月），「再び伴信友に導かれて今昔物語集の成立について考える」（国語国文51－９，27～39頁，中央図書出版社，1982年９月），⑦「伴信友，その人と著述」（小浜市立図書館講演会，1983年３月13日），⑧「文部省検定済高等学校国語科用『国語I』『国語II』『現代文』『古典（古文）』『古典（漢文）』『国語表現』」（編集委員，光

村図書，1982年４月），「末利　光著『ことばのおへそ』」(序文執筆，三省堂，1982年６月）。

志茂碩敏

②『東洋文庫所蔵ペルシア語文献および関係書誌目録』）（東洋文庫中央アジア・イスラム研究委員会，1983年３月，427頁），⑦「イル汗国におけるモンゴル人」（東洋史研究会大会，1982年11月３日，要旨：東洋史研究41－３，145～146頁，同朋舎，1982年12月），⑧「材質型雑感」)(歴史と地理324，27～28頁，山川出版社，1982年８月），「ジンギスカンについて」（アボメイト1982年８月，９月号，12～14頁，２～３頁，月刊アボメイト社），「能見正比古先生の思い出」（『能見正比古追悼寄稿集』，20～27頁，同記念会，1982年11月）。

斯波義信

①『函館華僑関係資料集』（大阪大学文学部紀要22，335頁，1982年12月），③「中国中世の商業」（『中世史講座３　中世の都市』，201～228頁，学生社，1982年８月），「中国，中近世の都市と農村 －－ 都市史研究の新しい視角」（『近世都市の比較史的研究，共同研究論集第一輯』，10～19頁，大阪大学文学部共同研究センター，1982年８月），「在日華僑と文化摩擦 － 函館の事例を中心に － 」（『叢書・アジアにおける文化摩擦，日本華僑と文化摩擦』，巌南堂書店，37～117頁，497～601頁，1983年１月），④「第八回国際経済史学会議と第二回中国歴史地理学術討論会」（東洋学報64－3・4，195～205頁，東洋文庫，1983年３月），⑤「中国水利史研究会編『中国水利史論集』」（社会経済史学48－4，112～114頁，社会経済史学会，1982年12月），⑥「宋代福建商人的活動及其社会経済背景」（庄景輝訳，中国社会経済史研究1983年１期，39～48頁），⑦〝Water Systems in The Lower Yaugtze Region in China〟(第八回国際経済史学会議，1982年８月16日，ハンガリー，ブタペスト市，23頁，附録８），「揚子江下遊地域的水系」（第２回中国歴史地理学術討論会，上海，1982年９月２日，13頁，附図９頁），⑧「函館関帝廟について(1)(2)」（日華月報187，１～２頁，同188，２～３頁，1982年５，６月）。

滋賀秀三

⑤「島田正郎：清律の成立」（法制史研究32，315～317頁，法制史学会，1983年３月）。

清水宏祐

⑦「トルコ人」（中近東文化センター・シンポジウム＜アラブと非アラブ＞，1982年９月10日），「イラン生活文化史への一視点 － ペルシア語の農業書をめぐって － 」（東洋

史研究会大会，1982年11月３日，要旨：東洋史研究 41〜3， 146頁，1982年12月），「文献史料より見た中東農業史」（於鳥取大学農学部砂丘利用研究施設，1982年12月22日）。

鈴木立子

③「方臘の乱，モンゴルの征服戦争，元末の紅巾の乱」（『世界を変えた戦争・革命・反乱』，65〜74頁，自由国民社，1983年），④「中華人民共和国における少数民族研究文献目録（一）」（東洋文庫書報14，105〜132頁，1983年３月），「顔中其著『蘇東坡』」（東洋学報64－１・２，177〜181頁，1983年１月）。

相田　洋

⑤「田仲一成著『中国祭祀演劇研究』」（東洋史研究41－２，187〜193頁，東洋史研究会，1982年９月），「国会図書館所蔵の『宝巻』について」（東洋学報64－３・４，177 〜 187頁，東洋文庫，1983年３月）

田川孝三

⑧「朝鮮の紙」（朝鮮史研究会会報68，朝鮮史研究会，1982年９月）。

竺沙雅章

②「宋元禅宗の墨蹟」（中田勇次郎編『中国の美術・書蹟』，淡交社，1982年５月，250頁），③「宋代官僚の寄居について」（東洋史研究41－１，28〜57頁，東洋史研究会，1982年６月），「明代寺田の賦役について」（『明清時代の政治と社会』，487〜511頁，京都大学人文科学研究所，1983年３月），⑦「蘇東坡とその時代」（書論研究会大会，1982年８月８日），⑧「本居宣長と『五雑組』」（汲古・創刊号，18〜19頁，汲古書院，1982年５月），「敦煌蔵経洞と洪䛒」（同朋1982−7， 2〜４頁，同朋舎，1982年７月），「高麗寺のことなど － 宋麗交渉史の一齣 －」（韓国文化1982－８，２〜３頁，自由社，1982年８月）。

鶴見尚弘

③「再び，康熙十五年丈量の蘇州府長洲県魚鱗図冊に関する田土統計的考察」（『中嶋敏先生古稀記念論集（下）』，415〜433頁，中嶋敏先生古稀記念事業会，1981年７月），⑦「魚鱗図冊について」（中国社会科学院歴史研究所研究会，1983年１月14日），「日本における明清時代の研究動向について」（中国社会科学院歴史研究所学術講座，1983年１月21日）。

土肥義和

⑦「八～九世紀敦煌出土漢文文書数種について ― 新発見給田関係文書及び吐蕃の敦煌支配関係文書 ― 」（唐代史研究会夏季大会，1982年７月10日於箱根強羅），⑧「敦煌文献から王義之『十七帖』残紙」（朝日新聞，1982年６月17日付文化欄），「大英図書館収蔵『敦煌・楼蘭古文書展』展観に寄せて」（墨40，1983年新年号，87～89頁，芸術出版社），「大英図書館留学雑記」（国学院大学父兄会会報1983－13，国学院大学，50～52頁）。

鳥海　靖

①『日本の歴史』（児玉幸多，平野邦雄，五味文彦氏と共著，山川出版社，1983年3月，281頁），③「概説 ― 強国をめざした集団指導」（『日本のリーダー』1「明治天皇と元勲」，13～26頁，ＴＢＳブリタニカ，1982年10月），⑤「小堀桂一郎著『宰相鈴木貫太郎』」（文化会議162，38～39頁，日本文化会議，1982年12月），⑦「浜口内閣の誕生」（石川県社会教育センター講演，1982年12月７日，要旨：石川 ― 自治と教育 ― 368，２～18頁，石川県自治と教育研究会，1983年３月），⑧「今月の日本史」（歴史読本27－9，27－15，28－3，216～217頁，新人物往来社，1982年７月，11月，1983年3月），「『危機』と日本人」（学鐙79－5，20～23頁，丸善，1982年５月），「世界史的視野で近代日本を見る ― 『日本の歴史（新版）』を執筆して ― 」（歴史地理322 ― 日本史の研究177 ―，36～37頁，山川出版社，1982年６月），「近代化の推進者10人」（歴史読本27－11，330～337頁，新人物往来社，1982年，８月），「紙の実弾・鉄の実弾」（『竹山道雄著作集』1「昭和の精神史」月報，６～８頁，福武書店，1983年３月）。

中嶋　敏

③「宋の都市生活」（高校通信・東書＜日本史・世界史＞79，２～５頁，東京書籍株式会社，1982年５月），「歴史に現われる「数」，中国における貨幣「銭」― 宋銭と明銭 ― 」（月刊歴史教育1982－7，70～73頁，東京法令出版株式会社，1982年７月），「広西桂林相思埭運河小考」（東洋研究65，35～47頁，大東文化大学東洋研究所，1983年1月）。

永田雄三

①『中東現代史Ⅰ ― トルコ・イラン・アフガニスタン ― 』（加賀谷・勝藤氏と共著，山川出版社，1982年5月，359頁）。

八尾師　誠

③「イラン＝ソヴィエト 関係の成立」（『ソ連の隣接国関係の比較研究』≪北海道大学スラブ研究センター研究報告シリーズ8≫，43～48頁，1982年９月），「イラン・パーレ

ヴィ体制の崩壊」（『国際年報』，309～329頁，日本国際問題研究所，1982年 10月），「イラン都市社会の無頼集団 — ルーティーの虚像と実像 — 」（月刊百科242，28～31頁，平凡社，1982年12月），⑤「日本イスラム協会監修『イスラム事典』」（オリエント25～2，129～136頁，オリエント学会，1983年3月）。

原　　實

①『インド思想史』（早島鏡正・高崎直道・前田専学と共著，東京大学出版会，1982年8月，266頁），③〝Quotations found in the Ratnaṭīkā of Bhāsarvajña,〟（In : *Indological and Buddhist Studies, Volume jn Honour of Professor J. W. de Jong on his Sixtieth Birthday*, ed., by L. A. Hercus, F. B. J. kuiper, T. Rajapatirana and E. R. Skrzypczak, Canberra 1982, PP. 187～209.），〝Atidāna, Atiyajana and Atitapas,〟（In : *Abhinandana—Bhāratī, Professor Krishna Kanta Handiqui Felicitation Volume*, Assam Research Society, Gauhati 1982, PP. 34～43.），「三度び」（『田村芳朗博士還暦記念論文集』，527～543頁，春秋社，1982年9月），「Vajrasūcī 3－4」（『中川善教先生頌徳記念論集』，221～241頁，同朋社，1983年3月），⑤〝*Dharma in Hindu Ethics* by Austin B. Creel (Calcutta, 1977)〟（In : the *Orientalistische Literaturzeitung* 77, Jahrgang 1982 Nr. 4 PP. 407～408 (Leipzig)），〝*Der Diebstahl der Lotusfassern* von R. K. Terrada, Freiburger Beiträge zur Indologie Band 15, (Wiesbaden, 1980)〟（In : 東洋学報 64－3・4，187～193頁，東洋文庫，1983年3月），⑦〝A Note on the sādhīna Jātaka,〟(on 23 March 1983 at the XXII Deutscher Orientalistentag, Tübingen)。

坂野正高

①『イメジの万華鏡』（筑摩書房，1982年8月，364頁），③「張蔭桓著『三洲日記』（一八九六年刊）を読む — 清末の一外交家の西洋社会観 — 」（国家学会雑誌96－7・8，491～512頁，1982年7月）。

古垣光一

⑦「宋代教育史の研究動向 — 特に中国人の研究を中心として — 」（東洋教育史学会106回例会，1982年7月19日）。

古屋昭弘

③「仏すなわち物」（節令3，14頁，1983年3月），⑥「S.E. ヤホントフ≪11世紀の北京語の発音≫」（均社論叢12，52～58頁，1982年11月），⑦「六朝・隋・唐の字書と韻書」（東洋文庫談話会，1983年2月5日，要旨：東洋文庫書報15）。

本庄比佐子

⑤「中国ソビエト関係新刊参考書・資料集紹介」（近代中国研究彙報5，75～89頁，東洋文庫，1983年3月）。

松濤誠達

③「インド文学よりみた大智度論の説話内容 ― 尸毘王説話の背景としての施与の思想 ―」（壬生台舜編『龍樹教学の研究』，245～281頁，大蔵出版社，1983年2月），⑤「山崎元一著『アショーカ王とその時代』」（国学院雑誌84－1，93～96頁，国学院大学，1983年1月）。

松村　潤

②『鑲紅旗檔　乾隆朝1』（東洋文庫，1983年3月，xvii，158頁），③「金・元・明の満洲，清朝の勃興」（『北アジア史（新版）』，299～312頁，313～324頁，山川出版社，1981年8月），「東洋文庫所蔵の満洲語文献」（史叢27，8～18頁，日本大学史学会，1981年5月），⑦“Notes on Šurgaci”（第六回東亜阿爾泰学会，1981年12月21日），⑧「エベレスト・ビュー」（季刊東西交渉1－4，12～13頁，井草出版，1982年12月）。

三根谷　徹

③「『韻鑑序例』考」（国学院雑誌83－11，313～320頁，国学院大学，1982年11月），「言語の記述と説明」（国語研究46，1～7頁，国学院大学国語研究会，1983年1月）。

山口瑞鳳

①『吐蕃王国成立史研究』（岩波書店，1983年2月，1003頁），②『スタイン蒐集チベット語文献解題目録 ― 第六分冊 ― 』『同上 ― 第七分冊 ― 』（東洋文庫，チベット研究委員会，1982年3月，109頁，1983年3月，128頁），③「チベット史料の年次計算法」（東洋学報63－3・4，141～168頁，東洋文庫，1982年3月），「漢人及び通頬人による沙州吐蕃軍団編成の時期」（東京大学文学部文化交流研究施設研究紀要5，1～21頁，1982年3月），「チベットの歴史」（『西蔵』，175～186頁，毎日コミュニケーション

ズ，1982年5月），「チョナンパの如来蔵説とその批判説」（『田村芳朗博士還暦記念論文集』，585〜605頁，春秋社，1982年9月），「チベット仏教史略説」（東洋学術研究21－2，1〜13頁，1982年11月），「カダム派の典籍と教義」（東洋学術研究21－2，68〜80頁，1982年11月），「チベット仏教典籍解題」（成田山仏教研究所紀要7，1〜37頁，1982年12月），④「チベット学とチベット仏教学の将来」（中外日報，1982年7月，1面5回）。

山崎元一

①『アショーカ王とその時代』（春秋社，1982年7月，288頁），③「古代インドの森林と林住族」（東洋学報64－3・4，135〜163頁，東洋文庫，1983年3月），〝The Spread of Buddhism in the Mauryan Age－with special raference to the Mahinda legend〞(In: Acta Asiatica 43, PP. 1〜16, the Tōhō Gakkai, August 1982),④〝Postwar Japanese Studies in the Socio－Economic History in Ancient India〞(With Toshio YAMAZAKI, in Acta Asiatica 43, PP. 81〜91)。

山根幸夫

③「『辛亥革命と日本』に関するわが国の研究動向」（社会科学討究27－2，327〜338頁，早稲田大学社会科学研究所，1982年5月），「中国中世の都市」（『中世史講座』3，学生社，78〜101頁，1982年8月），「"研究動向"の方法」（書誌索引展望7－1，6〜9頁，日本索引家協会，1983年2月），「日本対中国共和制的反応」（亜非問題研究1，147〜159頁，北京大学亜非研究所，1982年12月），「二十一箇条要求と日本人の反応」（『佐久間重男教授退休記念中国史・陶磁史論集』，307〜329頁，燎原書店，1983年3月），⑤「アジア研究所刊『チベット研究文献目録』について」（アジア研究所報26，1頁，亜細亜大学，1982年5月），「『チベット研究文献目録』書評」（中外日報 1982年6月27日，10頁，中外日報社），「鄭樑生『明史日本伝正補』」（東洋学報64－3・4，165〜169頁，東洋文庫，1983年3月），「遼寧大学中国近代史教研室編『中国近代史論文資料索引 1949〜1979』」（東洋学報64－1・2，181〜184頁，東洋文庫 1983年1月），「浜島敦俊『北京図書館蔵≪按呉親審檄稿≫簡紹』」(法制史研究32，313〜314頁，法制史研究会，1983年3月），「川勝守『明末清初の訟師について』」（法制史研究32，314〜315頁，法制史研究会，1983年3月），⑥「金鍾博著『明代東林党争とその社会背景』」（稲田英子共訳，明代史研究11，35〜50頁，明代史研究会，1983年3月），⑦「二十一箇条交渉と日本人の反応」（南開大学歴史系報告会，1982年9月3日），「戦後日本の社会科教科書の推移」（南開大学歴史系報告会，1982年9月3日），「二十一箇条交渉に関する学術座談会」（遼寧大学歴史系，関捷教授他，1982年9月9日），「二十一箇

条交渉に関する学術座談会」（吉林大学歴史系，李時岳教授他，1982年 9月11日），「戦後日本の社会科教科書の推移」（吉林大学歴史系報告会，1982年 9月11日），「二十一箇条交渉と日本人の反応」（北京大学亜非研究所， 1982年 9月13日），「鄭樑生『明史日本伝正補』について」（京大人文科学研究所明清研究班，1983年 2月 8日），⑧「吉林大学学生と教科書問題」（東方 26, 7～11頁，東方書店，1983年 3月），「謝国楨先生を悼む」（明代史研究 11, 1～6頁，明代史研究会， 1983年 3月），「あとがき」（『佐久間教授退休記念中国史・陶磁史論集』，627～629頁，燎原書店，1983年 3月）。

渡辺紘良

③「宋代福建社会の一面 ― 陸棠栄伝訳注補 ―」（独協医科大学教養医学科紀要 5，5 ～21頁，独協医科大学教養医学科，1982年12月），⑧「資料としての『宋史選挙志』」（中嶋　敏編著『ふみあと抄』，108～112頁，中嶋　敏（自家出版）1982年 7月），「石井先生を憶う」（独協医科大学教養医学科紀要 5，2～4 頁，1982年12月）。

財団法人東洋文庫研究員・研究課題一覧

（昭和58年３月31日現在）

研究員名	主たる研究課題
荒　松雄	南アジア史における民族・宗教と国家
池田　温	中国古代史，古代東アジア文化交流史
市古宙三	太平天国及び中国共産党の研究
岩生成一	17世紀インドネシア移住日本人の活動
宇都木　章	春秋時代政治史
海野一隆	東洋地理・地図学の研究
榎　一雄	職貢図の研究
越智重明	漢魏晋南北朝史
岡田英弘	満文老檔訳註
亀井　孝	日本語の歴史的研究
山崎信定	チベット仏教の展開
河鰭源治	太平天国史の研究
神田信夫	清朝興起史
菊地英夫	唐宋時代の行政および法制（特に軍制）
北村　甫	現代チベット語諸方言の記述的研究
草野　靖	中国近世の租佃制度
河野六郎	中期朝鮮語の研究
後藤　明	イスラム社会と政治
後藤均平	ベトナム・中国関係史及び中国古代史の研究
佐伯　富	中国塩政史研究
佐藤次高	イスラム中世社会経済史の研究
酒井憲二	日本語の史的研究
斯波義信	中国社会経済史
滋賀秀三	中国法制史── 法と訴訟── の研究
清水宏祐	セルジューク朝時代のイラン
周藤吉之	宋・高麗との関係史再究

研究員名	主たる研究課題
末松保和	好太王とその時代
鈴木立子	元朝における社会経済史
関野　雄	中国考古学の研究
田川孝三	李氏朝鮮社会経済史研究
田中時彦	（近代日本政治史）
田中正俊	中国近代社会経済史
竺沙雅章	中国宗教社会史
鶴見尚弘	明・清時代社会経済史の研究
土肥義和	西域出土漢文文書の研究
鳥海　靖	近代日本政治外交史
中嶋　敏	宋代史
永田雄三	18・19世紀トルコの豪農地主の研究
花田宇秋	イスラム第二次内乱の研究
原　實	インド古代文学の研究
坂野正高	近代中国政治外交史
藤枝　晃	（文字の文化史）
本田實信	フラグ・ウルス国制史
松濤誠達	インド古代神話学
松村　潤	満文老檔訳註
松本　明	中国隋唐政治制度史
三根谷徹	漢字音の研究
護　雅夫	トルコ民族史
森岡　康	李朝中期の政治及び社会史の研究
山口瑞鳳	チベット史，チベット語文法，チベット仏教史
山崎元一	インド古代史
山根幸夫	明清社会経済史，近代日中関係史
山本達郎	ベトナム・中国関係史の研究，敦煌発見の籍帳類の研究
渡辺紘良	宋代社会史の研究

Ⅳ　業務報告

1.　庶務報告

A．財団法人東洋文庫理事会・評議員会

理　事　会

第234回　開催日　昭和57年6月8日（火曜日）
　　　　　出席者　榎　　一雄，市古　宙三，小笠原光雄，河野　六郎，田中　正俊
　　　　　　　　　護　　雅夫，山本　達郎，高雄　　靖，播磨　俊雄，
　　　　　委任状　有光　次郎，大槻　文平，高垣寅次郎，徳川　宗敬，中村　俊男
　　　　　　　　　松本　重治

第235回　開催日　昭和57年12月7日（火曜日）
　　　　　出席者　榎　　一雄，有光　次郎，小笠原光雄，河野　六郎，田中　正俊
　　　　　　　　　護　　雅夫，山本　達郎，播磨　俊雄
　　　　　委任状　市古　宙三，大槻　文平，高垣寅次郎，徳川　宗敬，松本　重治
　　　　　　　　　高雄　　靖

評議員会

第104回　開催日　昭和57年6月8日（火曜日）
　　　　　出席者　阿部　隆一，亀井　　孝，神田　信夫，平野　龍一
　　　　　委任状　石川　忠雄，梅原　末治，坂本　太郎，沢田　敏男，清水　　司
　　　　　　　　　田部文一郎，中嶋　　敏，中田　乙一，中山　素平，長谷川周重
　　　　　　　　　日比野丈夫

B．東洋学連絡委員会

前期　開催日　昭和57年5月25日（火曜日）
　　　出席者　榎　　一雄，阿部　隆一，市古　宙三，江上　波夫，小川　環樹
　　　　　　　佐藤　　長，中嶋　　敏，福井　康順，本田　實信，宮崎　市定
　　　　　　　山本　達郎
　　　議　題　1．昭和56年度財団法人東洋文庫事業報告について
　　　　　　　2．昭和57年度財団法人東洋文庫事業計画案について

後期　開催日　昭和57年11月9日（火曜日）

出席者　榎　一雄，阿部　隆一，市古　宙三，岩生　成一，江上　波夫
佐藤　長，中嶋　敏，福井　康順，本田　實信，宮崎　市定
山本　達郎

議　題　1. 昭和57年度財団法人東洋文庫事業中間報告について
2. 昭和58年度財団法人東洋文庫事業計画案について

2. 人事報告

役員移動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
57, 11, 5	評議員	清水　司	退任	早稲田大学総長
〃	〃	西原春夫	就任	〃
58, 1, 22	〃	阿部隆一	逝去	
58, 2, 19	〃	梅原末治	〃	

職員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
57, 4, 1	研究員（奨励）	臼井　佐知子	就職	
〃	〃	八尾師　誠	〃	
〃	〃	古屋昭弘	〃	
57, 6, 1	研究員（兼任）	花田宇秋	〃	
57, 12, 31	参事	染谷コウ	退職	
58, 2, 10	研究員（兼任）	青山定雄	逝去	
58, 3, 31	司書	大塚祐子	退職	
〃	研究員（奨励）	古屋昭弘	〃	

受　賞

年月日	役職名	氏名	区分	備考
57, 5, 3	評議員	田部文一郎	叙勲	勲一等瑞宝章
〃	〃	中嶋　敏	〃	勲三等旭日中綬章
〃	研究員（兼任）	周藤吉之	〃	〃
57, 11, 3	評議員	坂本太郎	受章	文化勲章
〃	研究員（兼任）	藤枝　晃	叙勲	勲三等旭日中綬章

表　彰

年月日	役職名	氏名	区分	備考
57, 11, 19	司書	池田直人	勤続	２０年
〃	〃	小林輝男	〃	〃

3. 会計報告

昭和57年度財団法人東洋文庫収支決算書

昭和58年3月31日現在

支出の部		収入の部	
科目	金額（千円）	科目	金額（千円）
一般会計		一般会計	
経常費	76,742	国庫補助金	47,547
事業費	59,055	維持会費収入及寄付金収入	29,620
		財産収入	31,715
		事業収入	26,813
		雑収入	102
小計	135,797	小計	135,797
特別会計		特別会計	
文部省科学研究費	8,100	文部省科学研究費補助金	8,100
合計	143,897	合計	143,897

国庫補助金年度別受入額一覧表

年度別	一般会計 (千円)	特別会計 (千円)	合計 (千円)
22	320	—	320
23	600	—	600
24	720	—	720
25	530	—	530
26	350	1,070	1,420
27	600	150	750
28	1,000	4,500	5,500
29	1,000	1,300	2,300
30	3,850	4,310	8,160
31	6,850	1,940	8,790
32	6,850	2,650	9,500
33	6,850	500	7,350
34	6,765	5,640	12,405
35	6,562	6,010	12,572
36	6,000	3,600	9,600
37	6,000	2,010	8,010
38	6,000	2,785	8,785
39	7,828	3,350	11,178
40	8.382	8,895	17,277
41	9,166 (9,500)	9,160	18,326
42	10,901 (11,500)	7,560	18,461
43	11,500	9,900	21,400
44	13,236 (13,500)	7,300	20,536
45	14,827 (15,300)	6,900	21,727
46	16,659 (17,200)	13,900	30,559
47	18,377 (19,000)	11,000	29,377
48	24,173 (25,000)	3,300	27,473
49	28,383 (29,000)	9,420	37,803
50	30,849 (33,000)	14,040	44,889
51	33,750 (34,500)	0	33,750
52	35,883 (36,632)	10,000	45,883
53	40,509 (41,036)	11,000	51,509
54	44,951 (45,536)	5,500	50,451
55	45,453 (46,447)	9,700	55,153
56	47,547	12,870	60,417
57	47,547	8,100	55,647

(　) 内は当初予算額

文部省科学研究費補助金年度別受入一覧表

年度	区分	研究課題	研究代表者	補助金額(千円)	
26	研究成果刊行費	ブラーフマナとシュラウタスートラとの関係	辻　直四郎	400	1,070
	〃	日清戦没外交史の研究	岩井　大慧	200	
	〃	支那経済史考証	和田　清	390	
	各個研究	古代中国の民族構成の研究	〃	80	
27	研究成果刊行費	明代建州女直史研究	園田　一亀		150
28	機関研究	スタイン博士蒐集敦煌文書のマイクロフィルム撮影並びにその整理研究	岩井　大慧		4,500
29	〃	〃	〃		1,300
30	〃	〃	〃	4,000	4,310
	研究成果刊行費	満文老檔　I	神田　信夫	310	
31	機関研究	スタイン博士蒐集敦煌文書のマイクロフィルム撮影並びにその整理研究	岩井　大慧	1,700	1,940
	研究成果刊行費	満文老檔　II	神田　信夫	240	
32	機関研究	スタイン博士蒐集敦煌文書のマイクロフィルム撮影並びにその整理研究	岩井　大慧	1,700	2,650
	総合研究	スタイン将来敦煌文献の調査研究	鈴木　俊	580	
	研究成果刊行費	満文老檔　III	神田　信夫	370	
33	総合研究	スタイン将来敦煌文献の調査研究	鈴木　俊		500

年度	区分	研究課題	研究代表者	補助金額（千円）	
34	機関研究	中世以降における東アジア諸地域の貴重文献の整理研究	岩井　大慧	4,000	5,640
	総合研究	スタイン将来敦煌文献の調査研究	鈴木　俊	800	
	〃	日唐法制経済文書の比較研究 ― 正倉院文書と敦煌文書 ―	仁井田　陞	500	
	研究成果刊行費	満文老檔　Ⅳ	神田　信夫	340	
35	機関研究	中世以降における東アジア諸地域の貴重文献の整理研究	岩井　大慧	4,800	6,010
	総合研究	西域出土古文書・古文献の調査研究	鈴木　俊	900	
	研究成果刊行費	満文老檔　Ⅴ	神田　信夫	310	
36	機関研究 B	イスラーム諸国の社会構造	榎　一雄	1,500	3,600
	〃 C	中世以降における東アジア諸地域の貴重文献の整理研究	岩井　大慧	600	
	総合研究	西域出土古文書・古文献の調査研究	鈴木　俊	1,200	
	研究成果刊行費	満文老檔　Ⅵ	神田　信夫	300	
37	機関研究 B	イスラーム諸国の社会構造	榎　一雄	1,700	2,010
	研究成果刊行費	満文老檔　Ⅶ	神田　信夫	310	
38	特定研究	イスラーム諸国の社会構造	榎　一雄	1,700	2,785
	研究成果刊行費	日本文・中国文・朝鮮文等逐次刊行物目録	岩井　大慧	1,045	
	各個研究	李朝仁祖朝に於ける贖還問題と対清貿易	森岡　康	40	

年度	区　分	研究課題	研究代表者	補助金（千円）	
39	特定研究 (2)	イスラーム諸国の社会構造	榎　一雄	1,700	3,350
	総合研究	宋代以降の中国農村社会経済関係語彙に関する研究	青山　定雄	750	
	研究成果刊行費	中国地方志連合目録	岩井　大慧	850	
	各個研究	北日本における晩期縄文文化の研究	渡辺　兼庸	50	
40	機関研究 (A)	地方志にもとづく中国社会の研究	田川　孝三	5,400	8,895
	特定研究 (2)	イスラーム諸国の社会構造	榎　一雄	1,440	
	総合研究	宋代以降の中国農村社会経済関係語彙に関する研究	青山　定雄	675	
	研究成果刊行費	梅原考古資料目録（朝鮮之部）	榎　一雄	550	
	〃	漢籍叢書所在目録	森　鹿三	830	
41	機関研究 A	地方志にもとづく中国社会の研究	田川　孝三	4,140	9,160
	特定研究 (2)	日本の近代化過程に対する国際的評価とその背景	榎　一雄	2,700	
	総合研究	金石文を主とした朝鮮史の基礎的研究	末松　保和	1,200	
	〃	パーリ語辞典編集のための基礎的研究	辻　直四郎	300	
	研究成果刊行費	漢籍分類目録集部（東洋文庫の部）	〃	820	
42	機関研究 A	地方志にもとづく中国社会の研究	田川　孝三	3,360	7,560
	特定研究 (2)	日本の近代化過程に対する国際的評価とその背景	榎　一雄	2,700	
	総合研究	金石文を主とした朝鮮史の基礎的研究	末松　保和	1,200	
	〃	パーリ語辞典編纂のための基礎的研究	辻　直四郎	300	

年度	区　　分	研　究　課　題	研究代表者	補助金額（千円）	
43	一般研究 A	唐末以降1940年代にいたる中国の地主制の体系的研究	青山　定雄	7,080	9,900
	特定研究 (2)	日本の近代化過程に対する国際的評価とその背景	榎　一雄	2,820	
44	一般研究 A	唐末以降1940年代にいたる中国の地主制の体系的研究	青山　定雄	2,000	7,300
	特定研究 (2)	日本の近代化過程に対する国際的評価とその背景	榎　一雄	2,820	
	総合研究 A	中国周辺諸言語に関する中国資料の調査研究	辻　直四郎	2,000	
	研究成果刊行費	唐代の服飾	原田　淑人	480	
45	一般研究 A	唐末以降1940年代にいたる中国の地主制の体系的研究	青山　定雄	800	6,900
	総合研究 A	中国周辺諸言語に関する中国資料の調査研究	辻　直四郎	1,600	
	海外学術調査	インド・シッキム・ブータン・ネパールにおけるチベット文献の調査と収集	榎　一雄	4,500	
46	一般研究 A	日本を中心とする近代東アジア国際関係の史的研究	市古　宙三	11,500	13,900
	総合研究 A	中国周辺諸言語に関する中国資料の調査研究	辻　直四郎	1,400	
	〃	李朝後半期の農村社会文化	田川　孝三	1,000	
47	一般研究 A	日本を中心とする近代東アジア国際関係の史的研究	市古　宙三	5,000	11,000
	総合研究 A	李朝後期の農村社会文化	田川　孝三	1,600	
	海外学術調査	インド・シッキム・ブータン・ネパールにおけるチベット文献の調査と収集	榎　一雄	4,400	
48	特定研究 A	両大戦間の中国をめぐる国際情勢	市古　宙三	2,500	3,300
	海外学術調査	東洋文庫インド・シッキム・ネパール調査隊収集チベット文献の整理と目録作成	北村　甫	800	

年度	区　分	研究課題	研究代表者	補助金額（千円）	
49	一般研究 A	南アジアにおける文化変容の研究および資料の収集	榎　一雄	6,690	9,420
	〃　D	明代の地方行政区割，府・州・県の地理的沿革に関する研究	鶴見　尚弘	230	
	特定研究 (2)	両大戦間の中国をめぐる国際情勢	市古　宙三	2,500	
50	一般研究 A	イスラム社会の構造に関する歴史学的研究	辻　直四郎	11,500	14,040
	〃　D	敦煌出土寺院関係古文書の基礎的研究	土肥　義和	290	
	特定研究 (2)	両大戦間の中国をめぐる国際情勢	榎　一雄	2,250	
52	一般研究 A	中国を中心とする東アジア国際関係史資料の書誌的研究	榎　一雄		10,000
53	一般研究 A	中国を中心とする東アジア国際関係史資料の書誌的研究	榎　一雄	3,000	11,000
	総合研究 A	仏典翻訳の対照意味論的研究	辻　直四郎	3,600	
	〃	李朝に於ける地方自治組織並びに農村社会経済語彙の研究	田川　孝三	4,400	
54	一般研究 A	中国を中心とする東アジア国際関係史資料の書誌的研究	榎　一雄	2,000	5,500
	総合研究 A	仏典翻訳の対照意味論的研究	辻　直四郎（原田　覚）	3,000	
	〃	李朝に於ける地方自治組織並びに農村社会経済語彙の研究	田川　孝三	500	
55	一般研究 A	南アジア史研究資料の基礎的研究	榎　一雄	9,400	9,700
	総合研究 A	仏典翻訳の対照意味論的研究	辻　直四郎（原田　覚）	300	

年度	区分	研究課題	研究代表者	補助金額（千円）	
56	一般研究 A	南アジア史研究資料の基礎的研究	榎　一雄	6,900	12,870
	総合研究 A	中東諸国における伝統と変革 ― その基礎的研究 ―	志茂　碩敏	4,400	
	研究成果刊行費	『解放日報』記事目録Ⅳ ― 附人名索引 ―	近代中国研究委員会	1,570	
57	一般研究 A	ユーラシア社会史における遊牧・農耕及び通商に関する基礎的研究	榎　一雄		8,100

文部省補助金研究者養成費年度別支給一覧表

年度	研究者氏名	研究課題	現職	補助金年額（千円）	備考
31	永積　昭	近世東南アジア貿易史の研究 — オランダ東印度会社の活動を中心として —	東京大学教授	480	
	高畠　稔	インド土地制度史の研究 — イギリスの統治下における —	北海道大学教授		
	斯波　義信	中国社会経済史の研究 — 特に宋代の商業史的研究を中心として —	大阪大学教授		
	本田　實信	蒙古民族史の研究	京都大学教授		
	山根　幸夫	15世紀以降の中国における郷村統治の研究	東京女子大学教授		
	松村　潤	清朝初期史 — 明・清・蒙古・満州・朝鮮の文献史料の比較検討 —	日本大学教授		
	山口　瑞鳳	梵蔵文文法論	東京大学教授		
32	永積　昭	（前掲出）	（前掲出）	480	
	高畠　稔	（〃）	（〃）		
	斯波　義信	（　）	（〃）		
	池田　温	唐代社会経済史研究	東京大学教授		
	山根　幸夫	（前掲出）	（前掲出）		
	松村　潤	（〃）	（〃）		
	山口　瑞鳳	（〃）	（〃）		
33	永積　昭	（前掲出）	（前掲出）	480	
	高畠　稔	（〃）	（〃）		
34	永積　昭	（前掲出）	（前掲出）	480	
	高畠　稔	（〃）	（〃）		
35	生田　滋	近世インドネシア史研究	財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化研究センター研究員	480	
	佐々木正哉	近世中国排外運動の研究	明治大学教授		

年度	研究者氏名	研究課題	現職	補助金年額（千円）	備考
36	佐々木正哉	（前掲出）	（前掲出）	480	
	金子　良太	サキヤ派史の研究	財団法人東洋文庫専任研究員		
37	金子　良太	（前掲出）	（前掲出）	480	
	酒井　良樹	ベトナムの国際的位置			
38	金子　良太	（前掲出）	（前掲出）	480	
	武田　幸男	朝鮮中世史研究	東京大学教授		
39	川崎　信定	チベットにおける仏教思想の展開 ― 唯識思想を中心とした跡づけ ―	筑波大学助教授	480	4.1―10.31
	山口　瑞鳳	チベット歴史辞典の編集及びチベット暦 ― 第6代ダライラマ伝説の研究 ―	（前掲出）		11.1―3.31
	山崎　元一	インド古代史の研究	国学院大学教授		
40	山口　瑞鳳	（前掲出）	（前掲出）	480	
	山崎　元一	（〃）	（〃）		
41	山口　瑞鳳	（前掲出）	（前掲出）	480	
	山崎　元一	（〃）	（〃）		
42	後藤　明	マホメット時代のアラブ社会の考察	山形大学助教授	600	
	西　義郎	ビルマ語の研究	愛媛大学教授		
43	後藤　明	（前掲出）	（前掲出）	600	
	西　義郎	（〃）	（〃）		
44	後藤　明	（前掲出）	（前掲出）	600	
	金子　良太	西域出土チベット文献の研究	（〃）		（昭和54.3.15逝去）

年度	研究者氏名	研究課題	現職	補助金年額(千円)	備考
45	長　正統	李朝後期の日鮮貿易史	九州大学助教授	1,080	
	川崎　信定	チベット仏教古派資料の研究	(前掲出)		
	永田　雄三	トルコの近代化に関する社会経済史的研究	東京外国語大学助教授		
46	長　正統	(前掲出)	(前掲出)	1,080	
	川崎　信定	(〃)	(〃)		
	渡辺　紘良	宋代地主制の研究	独協医科大学助教授		
47	長　正統	(前掲出)	(前掲出)	1,218	
	川崎　信定	(〃)	(〃)		
	二瓶　幸子	アティーシャ著「菩提前燈論」の研究	日本学士院事務官		4.1－6.30
	土肥　祐子	宋代における市舶制度の展開			10.1－3.31
48	菅野　裕臣	朝鮮語の歴史的研究	東京外国語大学教授	1,620	
	松本　明	唐代選挙制度の研究	財団法人東洋文庫専任研究員		
	花田　宇秋	イスラーム第二次内乱の研究	明治学院大学助教授		
49	菅野　裕臣	(前掲出)	(前掲出)	1,620	
	松本　明	(〃)	(〃)		
	花田　宇秋	(〃)	(〃)		
50	松本　明	(前掲出)	(前掲出)	2,700	
	花田　宇秋	(〃)	(〃)		
	長野　泰彦	ボン教の伝承に関する文献学的研究	国立民族学博物館助手		
51	長野　泰彦	(前掲出)	(前掲出)	3,024	
	古垣　光一	宋代官僚制の研究			
	志茂　碩敏	Gha Zan Khān の諸改革	財団法人東洋文庫司書		

年度	研究者氏名	研究課題	現職	補助金年額(千円)	備考
52	長野　泰彦	(前掲出)	(前掲出)	3,240	4.1－9.15
	原田　覚	吐蕃仏教の研究	東方学院講師		9.16－3.31
	古垣　光一	(前掲出)			
	佐藤　智水	南北朝・隋・唐初における邑義について	岡山大学助教授		4.1－3.31
	浜下　武志	中国近代経済史研究 — 金融問題を中心として —	東京大学助教授		12.1－3.31
53	原田　覚	(前掲出)	(前掲出)	3,492	
	浜下　武志	(〃)	(〃)		
	蔀　勇造	古代アラビア史のクロノロジーの研究	東京大学助手		
54	原田　覚	(前掲出)	(前掲出)	3,636	
	並木　頼寿	捻軍史を中心とする清末華北農村社会の研究	東海大学講師		
	新村　容子	清末地主制の研究			
55	原田　覚	(前掲出)	(前掲出)	3,708	
	並木　頼寿	(〃)	(〃)		
	新村　容子	(〃)	(〃)		
56	神矢　法子	漢唐間における家礼の規範的展開と礼俗		3,852	
	山内　昌之	トルコの近代社会とイスラム	東京大学助教授		
	山名　弘史	清代地主制の研究	法政大学講師		
57	臼井佐知子	清代における地方財政と権力関係及び市場構造問題		3,960	
	古屋　昭弘	中国語の音韻史研究 — 主として六朝・隋唐の字音を中心に —	早稲田大学講師		
	八尾師　誠	20世紀初頭のイランにおける立憲革命			

V 役職員名簿

昭和58年3月31日現在の財団法人東洋文庫の役職員は，以下のとおりである。

1. 役　員

役職名	氏　　名	現　　職
理事長代理 専務理事	榎　　一　雄	国立国会図書館支部東洋文庫文庫長 財団法人東洋文庫研究部部長 財団法人東洋文庫図書部部長 東京大学名誉教授
理　　事	有光次郎	日本芸術院院長 東京家政学院大学学長
〃	市古宙三	中央大学教授 お茶の水女子大学名誉教授
〃	大槻文平	三菱鉱業セメント株式会社取締役会長 社団法人日本経営者団体連盟会長
〃	小笠原光雄	株式会社三菱銀行相談役
〃	河野六郎	大東文化大学教授 東京教育大学名誉教授
〃	高垣寅次郎	日本学士院会員 一橋大学名誉教授 成城学園名誉教授
〃	田中正俊	東京大学教授
〃	徳川宗敬	神社本庁統理 社団法人日本博物館協会会長
〃	中村俊男	株式会社三菱銀行代表取締役会長 社団法人経済団体連合会副会長
〃	松本重治	財団法人国際文化会館理事長

役職名	氏　　名	現　　職
理　　事	護　　雅夫	日本大学教授 財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化研究センター所長 東京大学名誉教授
〃	山本達郎	日本学士院会員 東京大学名誉教授
監　　事	高雄　　靖	株式会社三菱総合研究所代表取締役社長
〃	播磨俊雄	三菱金曜会事務局局長
評議員	石川忠雄	慶応義塾塾長 慶応義塾大学学長
〃	亀井　　孝	成城大学教授 一橋大学名誉教授
〃	神田信夫	明治大学教授
〃	坂本太郎	国学院大学教授 日本学士院会員 東京大学名誉教授
〃	沢田敏男	京都大学学長
〃	田部文一郎	三菱商事株式会社取締役会長
〃	中嶋　　敏	大東文化大学教授 東京教育大学名誉教授
〃	中田乙一	三菱地所株式会社取締役会長
〃	中山素平	株式会社日本興業銀行相談役
〃	西原春夫	早稲田大学総長
〃	長谷川周重	住友化学工業株式会社会長
〃	日比野丈夫	大手前女子大学学長 京都大学名誉教授
〃	平野龍一	東京大学総長

2. 東洋学連絡委員会委員

役職名	氏　　名	現　　　職
委員長	榎　一雄	（前　掲　出）
常任委員	山本達郎	（　〃　）
委　員	市古宙三	（　〃　）
〃	岩生成一	日本学士院会員
〃	江上波夫	古代オリエント博物館館長 東京大学名誉教授
〃	小川環樹	京都産業大学教授 京都大学名誉教授
〃	貝塚茂樹	京都大学名誉教授
〃	佐藤　長	仏教大学教授 京都大学名誉教授
〃	長尾雅人	日本学士院会員 京都大学名誉教授
〃	中嶋　敏	（前　掲　出）
〃	日比野丈夫	（　〃　）
〃	福井康順	早稲田大学名誉教授
〃	本田實信	京都大学教授
〃	宮崎市定	京都大学名誉教授

3. 名誉研究員

氏名	現職
W. T. デ・バリイ	コロンビア大学教授
E. O. ライシャワー	ハーヴァード大学教授，元駐日アメリカ大使
G. トゥッチ	ローマ大学教授，イタリア中東亜研究所所長
A. フオン・ガベイン	前ハンブルグ大学教授
A. B. デイヴィス	シドニー大学教授
J. ヂェルネ	第7パリ大学教授，フランス国立高等研究院研究指導員
H. フランケ	ミュンヘン大学教授
L. ペテック	ローマ大学教授

4. 職員

部名	職名	氏名	現職
研究部	部長	榎一雄	（前掲出）
	部長代理	護雅夫	（前掲出）
	部長補佐	田中正俊	（前掲出）
	研究顧問	岩村忍	京都大学名誉教授
	〃	村田治郎	京都大学名誉教授
	研究員（兼任）	荒松雄	東京大学東洋文化研究所教授
	〃	池田温	東京大学東洋文化研究所教授
	〃	市古宙三	（前掲出）
	〃	岩生成一	（前掲出）

部名	職　　名	氏　　名	現　　職
研究部	研究員（兼任）	宇都木　章	青山学院大学教授
	〃	海野一隆	大阪大学教授
	〃	越智重明	九州大学教授
	〃	岡田英弘	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授
	〃	亀井　孝	（前　掲　出）
	〃	川崎信定	筑波大学助教授
	〃	河鰭源治	愛知大学教授
	〃	神田信夫	（前　掲　出）
	〃	菊池英夫	北海道大学教授
	〃	北村　甫	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授
	〃	草野　靖	熊本大学教授
	〃	河野六郎	（前　掲　出）
	〃	後藤　明	山形大学助教授
	〃	後藤均平	立教大学教授
	〃	佐伯　富	京都大学名誉教授
	〃	佐藤次高	東京大学助教授
	〃	酒井憲二	図書館情報大学教授
	〃	斯波義信	大阪大学教授
	〃	滋賀秀三	東京大学教授
	〃	清水宏祐	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助手
	〃	周藤吉之	東洋大学講師
	〃	末松保和	学習院大学名誉教授
	〃	関野　雄	東京大学名誉教授
	〃	田川孝三	日本大学講師

部名	職　名	氏　名	現　職
研究部	研究員(兼任)	田中時彦	東海大学教授
	〃	田中正俊	(前掲出)
	〃	竺沙雅章	京都大学教授
	〃	鶴見尚弘	横浜国立大学教授
	〃	土肥義和	国学院大学助教授
	〃	鳥海靖	東京大学教授
	〃	中嶋敏	(前掲出)
	〃	永田雄三	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助教授
	〃	花田宇秋	明治学院大学助教授
	〃	原實	東京大学教授
	〃	坂野正高	国際基督教大学教授
	〃	藤枝晃	京都大学名誉教授
	〃	本田實信	(前掲出)
	〃	松濤誠達	大正大学助教授
	〃	松村潤	日本大学教授
	〃	三根谷徹	国学院大学教授
	〃	護雅夫	(前掲出)
	〃	森岡康	
	〃	山口瑞鳳	東京大学教授
	〃	山崎元一	国学院大学教授
	〃	山根幸夫	東京女子大学教授
	〃	山本達郎	(前掲出)
	〃	渡辺紘良	独協医科大学助教授
	研究員(専任)	松本明	
	〃	鈴木立子	

部名	職名	氏名		
図書部	部長	榎　一雄*		
	主査	渡辺兼庸*		
	副主査	大塚祐子*,	小山　勲*	竹之内信子*
	〃	児野寿満子,	広瀬洋子*	
	係員	浅野千秋,	池田直人,	小林輝男*
	〃	志茂碩敏,	西薗一男	
総務部	部長	早船艶雄		
	課長	平野　豊		
	係員	稲村　優,	金子祐子,	光田憲雄
	〃	谷治嘉紀,	吉田男佐武	

（＊印は国立国会図書館支部東洋文庫職員）

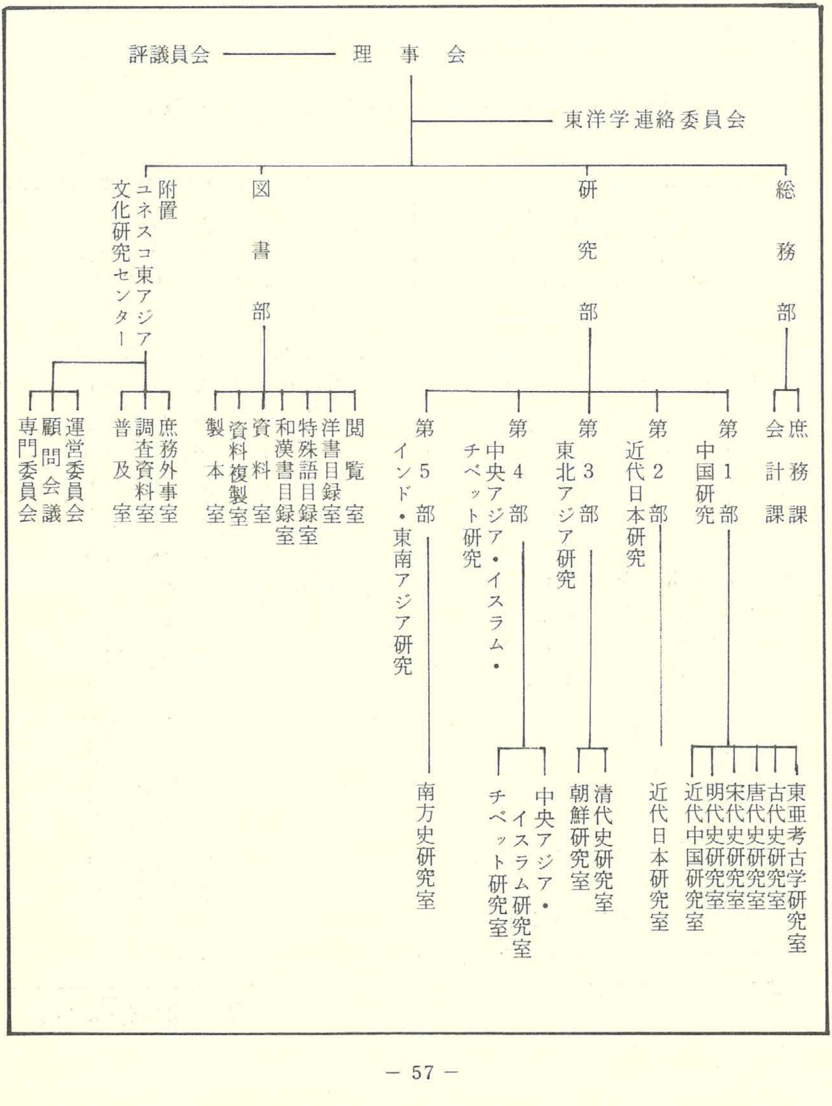
5. 臨時職員

部名	氏名			
研究部	安藤　充,	飯田　隆子,	石川　寛,	石川むつみ
	岩見　隆,	于　志嘉,	大井　剛,	金沢　篤
	兼田信一郎,	権太　澄子,	清水　海隆,	関　喜房
	高橋　明,	谷沢　淳三,	東長　靖,	蓮沼　龍子
	引田　弘道,	福田　安志		
図書部	礒崎　和子,	私市　正年,	熊谷　哲也,	清水　一枝,
	清水　敏江,	高山　博,	堂前　敏昭,	野村　徹,
	山本佳世子,	米林　仁,	渡辺　修	
総務部	岡本　美空			

（昭和57年4月1日～昭和58年3月31日間に在籍した者）

VI 組　　織

財団法人東法文庫組織図



Ⅶ 東洋文庫維持会

本維持会は，財団法人東洋文庫の事業を援助発展させることを目的として結成されたもので，現在の会員は下記の通り44社である。会員には普通会員（個人），賛助会員（個人又は法人団体），及び特別会員があり，特別会員を除き年会費（普通会員1口5千円以上，賛助会員1口50千円以上）を納入する。

財団法人東洋文庫維持会会員名簿

三菱重工業　株式会社	三菱アルミニウム　株式会社
株式会社　三菱銀行	三菱化工機　株式会社
旭硝子　株式会社	三菱瓦斯化学　株式会社
三菱化成工業　株式会社	三菱建設　株式会社
三菱金属　株式会社	三菱自動車工業　株式会社
三菱鉱業セメント　株式会社	三菱自動車販売　株式会社
三菱地所　株式会社	三菱樹脂　株式会社
三菱商事　株式会社	三菱製鋼　株式会社
三菱石油　株式会社	三菱製紙　株式会社
三菱電機　株式会社	三菱モンサント化成　株式会社
三菱レイヨン　株式会社	三菱油化　株式会社
日本郵船　株式会社	株式会社　伊勢丹
三菱信託銀行　株式会社	エーザイ　株式会社
三菱倉庫　株式会社	小田急電鉄　株式会社
明治生命保険　相互会社	株式会社　西武百貨店
株式会社　竹中工務店	戸田建設　株式会社
千代田化工建設　株式会社	日本信託銀行　株式会社
東京急行電鉄　株式会社	株式会社　日立製作所
日興証券　株式会社	富士紡績　株式会社
麒麟麦酒　株式会社	本田技研工業　株式会社
東京海上火災保険　株式会社	精工産業　株式会社
日本光学工業　株式会社	
三菱アセテート　株式会社	計　44社

（昭和58年3月31日現在　敬称略・順不同）

Ⅷ　財団法人東洋文庫附置
ユネスコ東アジア文化研究センター事業

1.　調査研究事業

1－A.　長期調査研究「アジアの文化価値とその現代的条件への適応」

【年度】　10ヶ年計画第8年度

【概要】　本計画は，本来センターがユネスコ本部に提案し，1974（昭和49）年の第18回ユネスコ総会で採択された研究計画である。この計画実施のために1976（昭和51）年3月に、センターが受入機関となって東京で開催された「アジア地域文化研究機関代表者会議」の決議に基づいて，各国で調査研究が進められているが，センターでは，本年度，次の四つの研究テーマによる調査研究を実施した。

1－A－1.　「アジア諸文化の特色」（5年計画延長年度）

【概要】　日本を含むアジア各地の伝統的芸術・芸能等の文化遺産の現状及び由来を調査し，それらの現代における意味を探ると同時に，それらの比較研究をおこなうために必要な概念を分析・整理することを目的としている。

【専門委員】　小泉文夫（委員長），河竹登志夫，田口安男，前野　堯，松村禎三。

【事業内容】

専門委員会

5月20日：G．オズギュール「トルコの細密画について」

7月3日：石山　彰「服飾から見た日本文化の特性」

1月11日：西山松之助「日本の料理」

3月22−23日：「アジア諸民族文化の特色」

「人間博物館リトルワールド」見学と，総合的討議。

1－A－2.　「アジア諸国における国民統合の理念とその機能」（5年計画第4年度）

【概要】　流動しつづけるアジア諸国において，国民を統合するための理念が形成される契機及びその内容，実際の機能のしかたを明らかにすることを目的とし，主として社会科学的観点から研究を進める。

【専門委員】　衛藤瀋吉（委員長），古賀正則，白石　隆，土屋健治，平野健一郎，広瀬久

和，山影　進。

【事業内容】

専門委員会

1月28日：恒川恵市「国民統合をめぐる諸概念について」

1－A－3.　「現代アジア諸国におけるマスコミュニケーションと大衆文化」（5年計画第4年度）

【概要】　アジア諸国において，各国の文化的価値観の形成に重要な役割をもつラジオ・新聞・テレビ・雑誌などのマスコミュニケーションが，実際に大衆文化にいかなる要素を送りこんでいるかを明らかにすることを目的とし，主として人文科学的研究をおこなう。

【専門委員】　辻村　明（委員長），伊藤慎一，稲増龍夫，岩男寿美子，岡部慶三，佐田一彦。

【事業内容】

専門委員会

5月28日：野中耕一・駒井　洋「タイ国の現状について」

10月6日：来年度現地調査計画の検討

11月9日：「タイ・インドネシア・マレーシア現地調査の方法」

12月21日：「現地調査質問票の作成について」

1月31日：「調査項目概要について」

所員の海外派遣

派遣国：インドネシア，シンガポール，マレーシア，タイ，韓国

被派遣者：生田　滋

派遣期間：昭和58年2月20日　～　3月6日

派遣目的：現地調査打ち合わせ

1－A－4.　「アジア諸国における企業経営の社会的性格」（5年計画第2年度）

【概要】　変容を遂げつつあるアジア諸国において，都市を中心として展開する人為的な集団すなわち企業をとりあげ，そこに反映されている伝統的な文化価値を分析・整理することによって，諸地域の現代的特色を追求しようとするものである。

【専門委員】　中川敬一郎（委員長），加納啓良，菅　俊雄，小池賢治，末広　昭，谷浦孝雄。

【事業内容】

専門委員会

10月16日：プロジェクトの編成と今後の事業推進計画

11月24日：プロジェクト編成と今後の事業活動

1月21日：デ・ヘスス「アジアにおける経営研究の現状と問題点」
2月28日：菅　俊雄「華人企業家の活動態様」

1－B.　一般調査研究

1－B－1.　「東アジア文化研究」

【概要】　東アジア文化の形成に欠くことのできない要素としての「青銅器文化」と「稲作文化」に注目し，資料の収集・整理と共に調査研究を進める。

1－B－1－a.　「中国青銅器文化研究の現状調査」（4年計画第2年度）

【事業内容】

中国青銅器を中心に，シベリア・中央アジアも含めて，関係論文・報告書のリストアップを継続した。

1－B－1－b.　「東アジアの稲作文化」（5年計画最終年度）

【専門委員】　渡部忠世（委員長），飯島　茂，大林太良，佐々木高明，高谷好一

【事業内容】

専門委員会

9月18日：沖縄県与那国島における実施調査の報告書のとりまとめについて
昭和58年度開催予定の国際会議の事業計画等について

1－B－2.　「アジア地域における文化研究機関の実態とその活動に関する調査」（4年計画最終年度）

【概要】　アジア諸国の文化研究機関の活動の実態を知ることは，地域研究の拡充，国際協力の充実強化のための基礎的な条件である。そのため，アンケート調査等を通じて得た情報を英文で公刊することを目的としている。

【事業内容】

韓国における文化研究機関のアンケートによる実態調査をとりまとめて出版した。

1－B－3.　「ラジオ・テレビジョンが伝統芸能に与える影響に関する調査」（2年計画初年度）

【概要】　ラジオ・テレビジョンでとりあげられる日本の伝統芸能の実態を，量的，質的角度から把えることによって，伝統芸能の今日的状況課題を検討する。

【事業内容】

昭和57年1月1日から12月31日までの日本全国のラジオ・テレビジョンが取り扱った伝統芸能番組名と，その時間数及び視聴率の集計を行った。

1－B－4.「日本の古代都市に関する研究」（3年計画初年度）

【事業内容】

平城京を中心とした飛鳥，奈良地域の歴史および遺物，遺跡の保存に関する報告書を作成する。この事業はユネスコの実施している調査研究「アジアの古代都市の研究」の一部をなす。

1－C. 特別調査研究「現代アジアの社会的，文化的環境の現状に関する基礎的調査」（7年計画第4年度）

【概要】 この特別調査研究は，アジア諸国の文化・社会について実験的で，かつ総合的な方法を採用しながら，アジア地域が共通にもっている特質を研究し，アジア地域の実情の把握につとめようとするものである。

1－C－1.「アジア諸国におけるエリートに関する社会科学的総合調査」

【事業内容】

専門家会議

3月19日：土屋健治「十九世紀ジャワのエリートについて──伝統と近代をめぐる諸問題──」

1－C－2.「アジア諸国における大衆文化──特に口碑伝承の調査──」

【事業内容】

専門家会議

2月19日：津曲敏郎「満州語の口碑伝承」

荻中美枝「アイヌ口承文芸のジャンル──とくに神々のユーカラについて－」

切替英雄「アイヌ口碑伝承におけるいわゆる一人称説述体について」

2. 学術交流及び普及，ドキュメンテーション活動

2－A. 学術交流

2－A－1. 外国人研究者の招聘

ビエンヴェニド＝ルンベラ，フィリピン大学フィリピン語フィリピン文学科教授 Bienvenido Lumbera, Professor, Department of Filipino and Philippine Literature, University of the Philippines, Quezon City

招聘期間：昭和58年3月14日～27日

2－A－2. 外国人研究者による研究会開催

ケルカル，サヒティアアカデミー事務総長 R. S. Kelkar, Secretary General, Sahitiya Academy, New Delhi。「Sahitiya Academyの活動について」（10月15日）

2－A－3. 研究者および所員の海外派遣

私市正年：昭和57年6月30日 ～ 7月20日，下記2－C参照。

生田　滋：昭和58年2月20日 ～ 3月6日，上記1－A－3参照。

2－A－4. 外国人研究者，各種専門家に対する便宜供与

今年度，上記の外国人研究者（2－A－1，2）以外でセンターを訪れ，センターが情報提供等の便宜を供与した外国人研究者は以下のとおりである。

Mr. Kim Sang-Kyuh	Chief, Social Science Division, Korean National Commission for Unesco, Seoul
Mrs. Siriporn Kijkuarkull	External Relations Officer, Thailand National Commission for Unesco, Bangkok
Mr. MD Khurshid Alam	Assistant Secretary, Bangladesh National Commission for Unesco, Dacca
Dr. Apolinario Y. Tating	Publications Officer, Unesco National Commission of the Philippines, Manila
Dr. Eugeni Lubo-Lesnitchenko	Chief. Far Eastern Section, The State Hermitage Museum, Leningrad
Dr. Michail V. Kryukov	Chief, Department of Asian Eth-

	nology, Institute of Ethnology, USSR Academy of Sciences, Moscow
Mr. Jan Šimek	Second Secretary, The Embassy of the Czechoslovak Socialist Republic, Tokyo
Mrs. Sushma Omata	Nepalese folk musician, Tokyo
Dr. Henri de Mink	President, Inter-Documentation Company, Leiden
Ms. Louisa Schein	Researcher in ethnology (South China), Brown University, Providence, Rhode Island
Prof. György Kara	Head, Department of Central Asian Studies, Budapest Eötvös Loránd University
Dr. Serafin D. Quiason	Director, The National Library, Manila
Mrs. Sonia N. Quiason	Professor, Department of Food Industry, University of the Philippines, Quezon City
Mr. Stephen F. Teiser	Graduate Student, Princeton University, Princeton
Dr. Trailokya Nath Upraity	Unesco Regional Adviser for Culture in Asia and Pacific, Bangkok
Dr. Choe Hak-kun	Professor, College of Humanities, Seoul National University
Mr. J. A. Traksel	Adviser, Inter-Documentation Company, Leiden
Miss Ha Young Nam	Korean National Commission for Unesco, Seoul
Mr. Rana Raghubir	The Nepal National Commission for Unesco, Kathmandu
Mr. Mohd Yusof Bin Haji Nurim	Malaysian National Commission for Unesco, Kuala Lumpur

2－B．文献目録等の作成

2－B－1．「日本における近代中国研究の現状」調査

【連絡委員】 市古宙三（代表），安藤彦太郎，今堀誠二，衛藤瀋吉，川勝　守，河地重蔵，菊池英夫，鈴木中正，田中正俊，藤本　昭，堀川哲男，山田辰男。

【事業内容】 例年通り，アンケート方式により国内の近代中国研究者の姓名，住所，現職，専門領域，業績の調査を行いカード化した。このカードは東洋文庫近代中国研究室参考図書室で研究者の便に供された。従来はさらにロンドンのChina Quarterlyに送付され，そのリスト刊行に利用されていたが，57年3月をもって廃刊されたため，センター独自に出版した。

2－B－2．「日本における中央アジア研究文献目録」の編集（5年計画最終年度）

昨年度にひき続き，日本人による中央アジア関係の研究文献目録の編集にあたり，基礎カードの作成を継続した。

2－B－3．「日本におけるアジア（含日本）研究者一覧」の編集

下記3－D－1のシリーズ完成に付随するものとして，ひきつづき編集を進めた。

2－C．資料の調査・収集および整理

本事業は，アジア諸国においてアジア諸言語によって書かれたアジアの社会・文化・歴史に関する学術書・学術雑誌等の刊行物の出版状況を調査して情報を収集するほか，今後のアジア研究に必要な書籍・定期刊行物・文献などを収集し整理することを目的としている。ここ数年来，とくに世界の注目の的となっている中東の研究に関する，アラビア語・トルコ語・ペルシア語文献の調査・収集を進めてきている。

本年度はアラビア語に関する学術書・学術雑誌・マイクロフィルムの出版状況調査を目的として，東海大学非常勤講師私市正年氏をエジプト，チュニジア，アルジェリア，モロッコ諸国に派遣した。その結果アラビア語文献約300冊を購入した。また，別個に購入されたアラビア語およびトルコ語文献を合わせて本年度は約510冊の文献，マイクロフィルム12本を収集した。

2－D．語学講習会の開催

ネパール語講習会

期　間：昭和57年7月19日（月）～8月17日（金）　毎週月曜日から金曜日まで　午後1時より4時まで

場　所：電通共済生協会館（駒込）

講　師：石井　溥，スシュマ・オマタ

終了者：23名

2－E．図書の寄贈及び交換

本年度も従来どおり，センターの出版物を国内の大学，研究所，在日各国公館など約200個所，国外の大学，研究所，国際的機関など約300個所に定期的に寄贈した。また国内の研究機関約50個所，国外の研究機関約100個所から定期的に出版物の寄贈をうけた。

3. 出版物の作成

3－A．機関誌East Asian Cultural Studiesの刊行

本年度は，Vol. XXII, Nos. 1－4合併号を刊行した。内容は55年度に終了した長期調査研究「アジアの伝統文化における理想像――年中行事と生涯行事の分析――」の最終報告書である。タイトルは『Ritual and Society』で，目次は下記のとおりである。

Introduction, by Nakane Chie

Intimate Relationships in Burma, by Tamura Katsumi

Social Gathering at Night : Forms of Communal Assembly in Java, by Sekimoto Teruo

Blessing and Display : Northern Thai House－warming Ceremonies, by Kajiwara Kageaki

The Ghosts Invited : The Festival for the Dead among the Iban of Sarawak, by Uchibori Motomitsu

Communicating with Spirits : A Study of the *Manganito* Seance among the Southwestern Pinatubo Negritos, by Shimizu Hiromu

Unfulfilled Symmetry : Women's Position to Men in the Social

Universe of the Mbotgote in Malekula Island, Vanuatu, by Funabiki Takeo

Jar for Ancestor Spirits : Social Implications of Household in Rural Korea, by Itō Abito

Human Relations in Rituals : Cases from Japanese Villages, by Yanagawa Keiichi

3－B．アジア史料叢刊（英文）

『ラーマ一世年代記』第2巻註釈篇の編集および，チャン＝ヴァン＝ザップ著，グエン＝カク＝カム翻訳『ベトナム書誌』の英文編集を継続した。

3－C．東アジア文化研究叢書（英文）

次の出版計画について検討した。

3－D．文献目録等の出版

3－D－1.

『日本における東洋学の回顧と展望』（英文 Oriental Studies in Japan : Retrospect and Prospect 1963－1972）のうち下記の3点を出版した。

Part Ⅰ－7 History of Modern Japan, by Toriumi Yasushi

Part Ⅰ－13 History of Arts（日本）, by Yanagisawa Taka

Part Ⅱ－3 History of Arts（日本以外の国）, by Takata Osamu

3－D－2.

『韓国における人文社会科学研究機関一覧』（英文 Research Institutes of Social Sciences and Humanities in the Republic of Korea, 1982－1983）, viii, 240ページを出版した。（1－B－2参照）

3－D－3.

『日本における近代中国研究者一覧』（英文 Modern China Studies in Japan,

December　1982）vii, 45ページを出版した。（2－B－1参照）

3－D－4.

『韓国における最近の考古学的発見』(英文　Recent Archaeological Discoveries in the Republic of Korea, by Kim Won－yong) vii, 94ページを出版した。内容目次は下記のとおりである。

Preface
Introduction
Ⅰ　The Palaeolithic Age
Ⅱ　The Neolithic Age
Ⅲ　The Bronze Age
Ⅳ　Three Kingdoms Period
Ⅴ　The Unified Silla Period
Ⅵ　The Wreck off Shinan
References
Plates

4. 業 務 報 告

A. 運営委員会・顧問会議

運営委員会

前　期　開催日　昭和57年５月25日（火）　午後１：30～３：00

場　所　東洋文庫会議室

報　告　1. 昭和56年度事業報告及び決算報告について

議　題　1. 昭和57年度事業計画案及び予算案について

2. 運営委員の改選について

後　期　開催日　昭和57年11月９日（火）　午後１：30～３：00

場　所　東洋文庫会議室

報　告　1. 昭和57年度事業及び会計中間報告について

議　題　1. 昭和58年度概算要求について

顧 問 会 議

開催日　昭和57年５月25日（火）　午後１：30～３：00

場　所　東洋文庫会議室

報　告　1. 昭和56年度事業報告及び決算報告について

議　題　1. 昭和57年度事業計画案及び予算案について

2. 運営委員の改選について

B. 役員異動

年月日	役職名	氏　名	区　分	備　　考
57. 4. 16	運営委員	中根千枝	退　任	前東京大学東洋文化研究所所長
4. 17	〃	大野盛雄	就　任	東京大学東洋文化研究所所長
4. 19	〃	藤田　勇	退　任	前東京大学社会科学研究所所長
〃	〃	福永光司	〃	前京都大学人文科学研究所所長
4. 20	〃	大石嘉一郎	就　任	東京大学社会科学研究所所長
〃	〃	上山春平	〃	京都大学人文科学研究所所長
7. 16	顧　　問	松浦泰次郎	退　任	前日本ユネスコ国内委員会事務総長
〃	運営委員	大崎　仁	〃	前文部省学術国際局審議官
7. 26	〃	山本　学	〃	前文部省学術国際局ユネスコ国際部部長
8. 16	顧　　問	大崎　仁	就　任	日本ユネスコ国内委員会事務総長
〃	運営委員	植木　浩	〃	文部省学術国際局審議官
〃	〃	斎木俊男	〃	文部省学術国際局ユネスコ国際部部長
11. 12	〃	伊達邦美	退　任	前国際交流基金専務理事
12. 10	〃	仙石　敬	就　任	国際交流基金専務理事

C. 職員異動

年月日	職　名	氏　名	区　分	備　　考
57. 4. 1	係　　員	直井靖夫	休　職	
57. 9. 17	研究助手	引田葉子	〃	
58. 3. 31	研 究 員	梅村　坦	退　職	
〃	研究助手	秩父良子	〃	

D. 受　　賞

年月日	役職名	氏　名	区　分	備　　考
57. 4. 29	運営委員	岡野　澄	叙　勲	勲二等瑞宝章
57. 11. 3	顧　　問	吉識雅夫	受　章	文化勲章

E. 表　彰

年月日	職　名	氏　名	区　分	備　　考
57. 11. 19	庶務外事室長	松前義治	勤　続	財団法人東洋文庫より勤続20年

F. 会計報告

昭和57年度ユネスコ東アジア文化研究センター収支決算書

（昭和58年3月31日現在）

支出の部		収入の部	
科目	金額（千円）	科目	金額（千円）
経常費	56,882	国庫補助金	80,019
人件費	51,973	ユネスコ援助金	993
事務費	4,909	財産収入	12
事業費	24,821	雑収入	679
研究経費	7,459		
長期調査研究費	5,170		
一般調査研究費	1,699		
特別調査研究費	590		
研究者の交流及び普及活動経費	3,269		
研究文献の収集・目録の作成・翻訳出版等経費	14,093		
計	81,703	計	81,703

5. 役 職 員 名 簿

昭和58年３月31日現在のユネスコ東アジア文化研究センターの役職員は以下のとおりである。

A. 所　長　　　　　　副所長
護　雅夫　　　　　　松村　潤

B. 運営委員

氏　名	現　職
伊藤良二	ユネスコ・アジア文化センター理事長
今枝愛眞	東京大学史料編纂所所長
岩生成一	日本学士院会員
植木　浩	文部省学術国際局審議官
上山春平	京都大学人文科学研究所所長
梅棹忠夫	国立民族学博物館館長
大石嘉一郎	東京大学社会科学研究所所長
大野盛雄	東京大学東洋文化研究所所長
岡野　澄	東京工業高等専門学校名誉教授
尾高邦雄	東京大学名誉教授
北村　甫	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所所長
斎木俊男	文部省学術国際局ユネスコ国際部部長
仙石　敬	国際交流基金専務理事
高田　修	東京国立文化財研究所名誉研究員
中村　元	東方学院長・東京大学名誉教授
服部四郎	日本学士院会員・東京大学名誉教授
福井康順	早稲田大学名誉教授
前田陽一	国際文化会館専務理事・東京大学名誉教授
森崎久寿	アジア経済研究所所長
山本達郎	日本学士院会員・東京大学名誉教授
渡部忠世	京都大学東南アジア研究センター所長

C. 顧　　問

氏　　名	現　　職
大　崎　　仁	日本ユネスコ国内委員会事務総長
林　　健太郎	国際交流基金理事長
前　田　充　明	財団法人文教協会会長・城西大学名誉学長
吉　識　雅　夫	日本ユネスコ国内委員会会長

D 参　　与

氏　　名	現　　職
青　山　秀　夫	京都大学名誉教授
織　田　武　雄	〃
田　村　実　造	〃
長　尾　雅　人	〃
丸　山　真　男	東京大学名誉教授
三　上　次　男	〃
宮　崎　市　定	京都大学名誉教授
宮　本　正　尊	〃

E. 専門員

Christian Ashley Daniels

F. 職　　員

職　　名	氏　　名
調査資料室長	生田　滋
普及室長	外池明江
庶務外事室長	松前義治
研究員	梅村　坦，本庄比佐子
研究助手	設楽靖子，秩父良子，引田葉子
係員	直井靖夫，酒井敬子

G.　臨 時 職 員

昭和57年4月1日から昭和58年3月31日に至る間に臨時職員として在籍した者は，以下のとおりである。

内野佳子，宇野伸浩，片山章雄，私市正年，久野正子，清水敏江，中田八重，西野節子

林　　徹，長縄誓子，保坂修司，吉村光子

財団法人 東洋文庫年報 昭和57年度

昭和58年12月20日 発行 （非 売 品）

発行者 東京都文京区本駒込2丁目28番地21号
財団法人 東 洋 文 庫
榎 一 雄

印刷者 東京都練馬区大泉町3丁目34番地10号
有限会社 日 本 興 業 社

発行所 東京都文京区本駒込2丁目28番地21号
財団法人 東 洋 文 庫

本書は昭和58年度財団法人東洋文庫に対する文部省
補助金の一部によって刊行されたものである。